

有価証券報告書

事業年度 自 2018年4月1日
(第86期) 至 2019年3月31日

ユシロ化学工業株式会社

有価証券報告書

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

第86期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	6
5 【従業員の状況】	7
第2 【事業の状況】	8
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	8
2 【事業等のリスク】	10
3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	11
4 【経営上の重要な契約等】	14
5 【研究開発活動】	14
第3 【設備の状況】	16
1 【設備投資等の概要】	16
2 【主要な設備の状況】	16
3 【設備の新設、除却等の計画】	17
第4 【提出会社の状況】	18
1 【株式等の状況】	18
2 【自己株式の取得等の状況】	20
3 【配当政策】	21
4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	22
第5 【経理の状況】	36
1 【連結財務諸表等】	37
2 【財務諸表等】	69
第6 【提出会社の株式事務の概要】	79
第7 【提出会社の参考情報】	80
1 【提出会社の親会社等の情報】	80
2 【その他の参考情報】	80
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	81

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年6月26日
【事業年度】	第86期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
【会社名】	ユシロ化学工業株式会社
【英訳名】	Yushiro Chemical Industry Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大 胡 栄 一
【本店の所在の場所】	東京都大田区千鳥2丁目34番16号
【電話番号】	03-3750-6761
【事務連絡者氏名】	コーポレート統括本部 財務部長 横 井 宏 紀
【最寄りの連絡場所】	東京都大田区千鳥2丁目34番16号
【電話番号】	03-3750-6761
【事務連絡者氏名】	コーポレート統括本部 財務部長 横 井 宏 紀
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第82期	第83期	第84期	第85期	第86期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	29,061	30,680	29,605	31,565	35,170
経常利益 (百万円)	2,521	2,947	3,017	3,243	2,634
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	1,703	1,993	1,697	2,228	1,724
包括利益 (百万円)	4,068	245	2,175	3,641	411
純資産額 (百万円)	29,015	28,536	29,318	32,197	31,791
総資産額 (百万円)	38,317	38,983	40,375	43,683	48,958
1株当たり純資産額 (円)	1,967.67	1,935.65	2,028.73	2,231.91	2,199.96
1株当たり当期純利益 (円)	122.94	143.89	124.37	164.13	127.03
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	71.1	68.8	68.2	69.4	61.0
自己資本利益率 (%)	6.6	7.4	6.2	7.7	5.7
株価収益率 (倍)	12.3	9.1	11.1	10.6	10.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,525	2,928	2,800	2,211	2,121
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△923	△92	△46	△1,241	△6,510
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△504	△923	△1,496	△975	3,500
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	5,152	6,780	8,034	8,082	6,947
従業員数 (名)	806	867	917	941	1,034

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 △はキャッシュ・フローにおける支出超過を示しております。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 従業員数は、就業人員数を表示しております。

5 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第86期の期首から適用しており、第82期から第85期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第82期	第83期	第84期	第85期	第86期
決算年月		2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高	(百万円)	17,171	16,055	15,391	16,362	17,396
経常利益	(百万円)	1,348	1,266	1,641	1,524	1,381
当期純利益	(百万円)	1,222	840	727	1,244	1,111
資本金	(百万円)	4,249	4,249	4,249	4,249	4,249
発行済株式総数	(株)	13,900,065	13,900,065	13,900,065	13,900,065	13,900,065
純資産額	(百万円)	19,169	18,945	19,488	20,745	20,699
総資産額	(百万円)	26,818	26,827	27,617	29,228	33,644
1株当たり純資産額	(円)	1,383.68	1,367.52	1,435.31	1,527.91	1,524.58
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額)	(円)	38 (15)	40 (15)	40 (15)	45 (15)	45 (20)
1株当たり当期純利益	(円)	88.26	60.68	53.27	91.64	81.84
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	71.5	70.6	70.6	71.0	61.5
自己資本利益率	(%)	6.6	4.4	3.8	6.2	5.4
株価収益率	(倍)	17.2	21.7	25.8	18.9	15.7
配当性向	(%)	43.1	65.9	75.1	49.1	55.0
従業員数	(名)	321	314	304	308	311
株主総利回り (比較指標:配当込みTOPIX)	(%) (%)	153.3 (130.7)	137.6 (116.6)	147.4 (133.7)	187.4 (154.9)	147.0 (147.1)
最高株価	(円)	1,909	1,670	1,490	1,941	1,870
最低株価	(円)	964	1,120	1,196	1,325	1,091

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3 従業員数は、就業人員数を表示しております。
4 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。
5 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当事業年度の期首から適用しており、第82期から第85期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

年月	概要
1944年7月	1933年森本貫一によって設立されたソルビル化学研究所を母体としてユシロ化学工業株式会社を大阪市城東区鳴野495番地に資本金19万円で設立。
1946年2月	本社、工場が戦災で全焼し、三重県名賀郡青山町へ移転し生産を再開。
1948年10月	関東地区の生産、販売拠点として東京工場、東京営業所を東京都大田区に設置。
1954年11月	当社ユーザーを中心とした切削油技術研究会を発足し事務局を引受ける。
1960年7月	東京工場内に技術研究所を併設。
1962年1月	需要増大に伴い本社、工場を三重県より大阪府枚方市に移転。
1964年3月	大阪中小企業投資育成㈱の第1号投資を受ける。
6月	本社工場切削油剤のJIS表示許可を受ける。
1965年7月	神奈川工場を神奈川県高座郡寒川町に設置し東京工場を廃止し移転。
1966年7月	神奈川工場切削油剤のJIS表示許可を受ける。
1968年1月	東京研究所を神奈川工場に移転し技術の充実を図る。
12月	中小企業センター賞を受賞。 名古屋製造所を名古屋市緑区に設置。
1972年11月	自主監査モデル法人として大阪国税局より認定を受ける。
1973年11月	ブラジル国サンパウロ州にユシロドブラジルインダストリアケミカLtda. を設立。（現・連結子会社）
1976年10月	韓国の汎宇化学工業㈱と技術提携。
1977年6月	企業合同によりユシロ運送㈱が発足。（現・連結子会社）
1978年3月	台湾に三宜油化股份有限公司を設立し合弁事業開始。
9月	本社工場にて爆発事故発生。
1980年6月	兵庫工場を兵庫県神崎郡福崎町に設置し本社工場を廃止し移転。
8月	本社機構を大阪府枚方市より東京都大田区へ移転。
12月	兵庫工場切削油剤のJIS表示許可を受ける。
1982年1月	日本整油㈱（旧・エヌエス・ユシロ㈱／現・JFE環境㈱）に資本参加し子会社とする。
12月	韓国の汎宇化学工業㈱に資本参加し合弁事業として開始。
1985年10月	本店の所在地を大阪府枚方市より東京都大田区に移転。
12月	東京証券取引所の市場第2部に上場。
1986年11月	米国インディアナ州に合弁会社ユーマインダストリーズ㈱（現・ユシロマニュファクチャリングアメリカInc.）を設立。（現・連結子会社）
1992年3月	韓国の汎宇に資本参加し合弁事業として開始。
6月	富士工場を静岡県駿東郡小山町に設置し神奈川工場を廃止し移転。
1993年8月	富士工場切削油剤のJIS表示許可を受ける。
1994年8月	中国に啓東興宇化工有限公司（現・啓東尤希路化学工業有限公司）を設立し合弁事業開始。（現・連結子会社）
1996年8月	マレーシア国のジェットケミカルズ㈱（現・ユシロマレーシアSdn. Bhd.）に資本参加し合弁事業開始。（現・連結子会社）
11月	富士工場が財団法人日本品質保証機構にて「ISO 9002」の認証を取得。
1997年11月	兵庫工場が財団法人日本品質保証機構にて「ISO 9002」の認証を取得。
12月	神奈川工場跡地に技術研究所の新試験棟が完成。
1999年8月	神奈川工場跡地に技術研究所の本館（現・神奈川テクニカルセンター）が完成。
2000年3月	富士工場が財団法人日本品質保証機構にて「ISO 14001」の認証を取得。
2001年2月	中国に合弁会社上海尤希路化学工業有限公司を設立。（現・連結子会社）
3月	兵庫工場が財団法人日本品質保証機構にて「ISO 14001」の認証を取得。
2002年7月	富士・兵庫両工場が財団法人日本品質保証機構にて「ISO 9002」を「ISO 9001」へ移行認証取得。
2004年9月	タイ国に合弁会社ユシロ（タイランド）Co., Ltd. を設立。（現・連結子会社）
2005年3月	東京証券取引所の市場第1部に昇格。
2008年5月	中国に合弁会社広州尤希路油剤有限公司を設立。（現・連結子会社）
6月	インド国に合弁会社ユシロインドカンパニーPvt. Ltd. を設立。（現・連結子会社）
2010年5月	エヌエス・ユシロ㈱（現・JFE環境㈱）の全株式売却に伴い、連結の範囲から除外。
6月	インドネシア国に合弁会社PT. ユシロインドネシアを設立。（現・連結子会社）
9月	メキシコ国にユシロマニュファクチャリングアメリカInc. の子会社として、ユシロメキシコS. A. de C. V. を設立。（現・連結子会社）
2011年3月	ユシロ運送㈱の倉庫部を分離し、ユシロ・ゼネラルサービス㈱を設立。（現・連結子会社）
2012年4月	名古屋支店内に名古屋テクニカルセンターが完成。
2013年12月	ユシロ（タイランド）Co., Ltd. 内にアセアンテクニカルセンターが完成。
2015年4月	株式取得により、日本シー・ビー・ケミカル㈱を子会社化。（現・連結子会社）
2016年4月	非連結子会社であった中国・泰興西碧化学有限公司とタイ国・Siam Cee-Bee Chemical Co., Ltd. を連結子会社化。（現・連結子会社）
2018年8月	ユシロマニュファクチャリングアメリカInc. を通じて株式取得し、米国・QualiChem, Inc. を子会社化。（現・連結子会社）

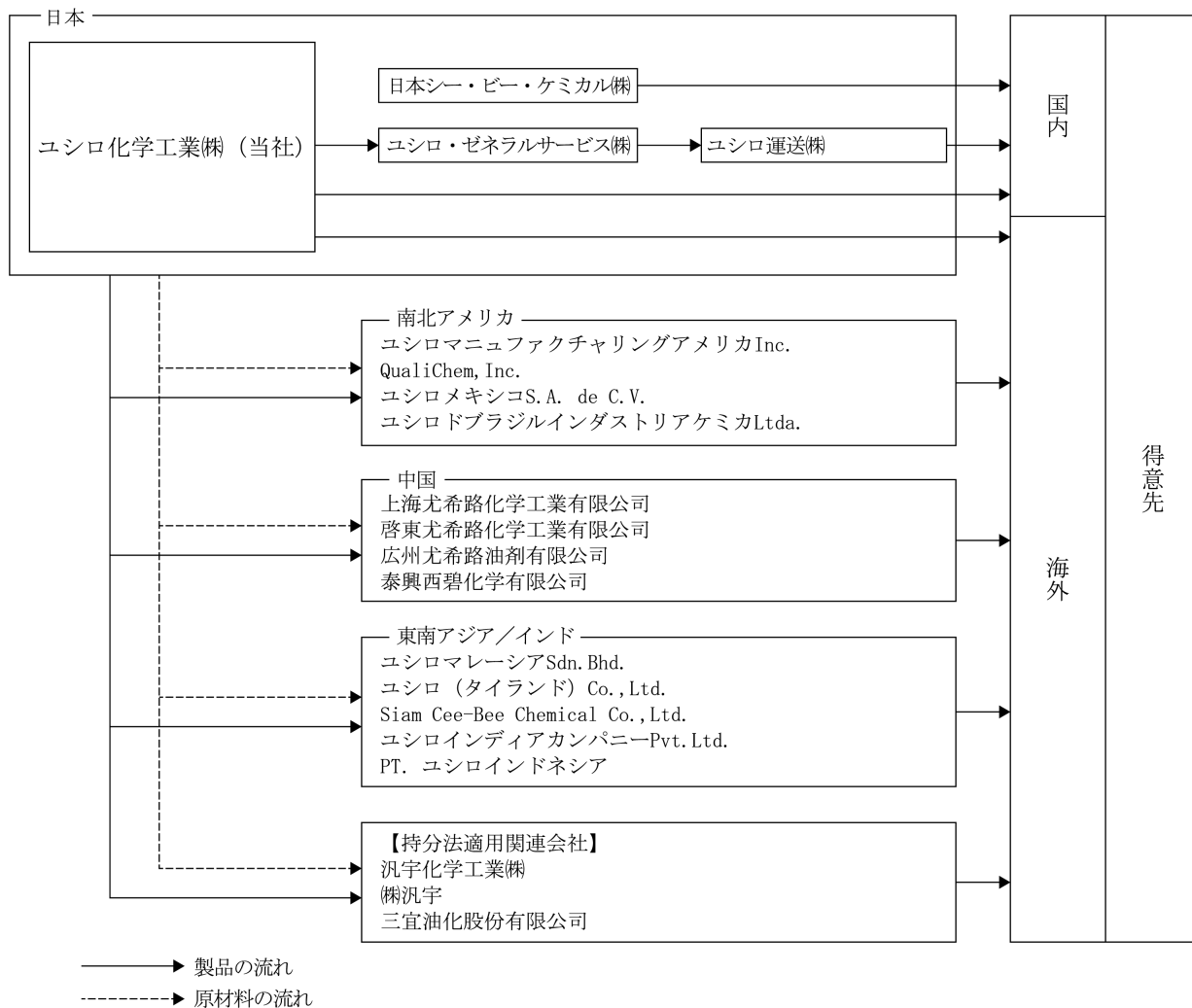
3 【事業の内容】

当社グループは、主に金属加工油剤を生産・販売しており、国内においては当社及び日本シー・ビー・ケミカル㈱が、海外においては各地域をそれぞれ独立した現地法人が担当しており、取扱う製品について各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、生産・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」、「南北アメリカ」、「中国」及び「東南アジア／インド」の4地域を報告セグメントとしております。また、「日本」セグメントでのみ、金属加工油剤のほか、ビルメンテナンス製品を生産・販売しております。

なお、上記の4地域は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

事業の系統図は次のとおりであります。



(複数の会社を枠で囲んでいる場合、矢印は一部の会社との関係を示す場合を含んでおります。)

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%) (注1)	関係内容
(連結子会社)					
ユシロ運送㈱	静岡県駿東郡 小山町	百万円 37	輸送業	100.0	当社の輸送業務を担当 役員の兼任等…1名
ユシロ・ゼネラルサービス㈱	静岡県駿東郡 小山町	百万円 20	倉庫管理業	100.0	当社の倉庫管理業を担当 役員の兼任等…1名 出向…1名
日本シー・ビー・ケミカル㈱	東京都品川区	百万円 335	化学薬品の 製造・販売等	100.0	役員の兼任等…1名 出向…1名 資金の貸付あり
ユシロ マニュファクチャリング アメリカInc. (注2)	米国 インディアナ州 シェルビービル市	千US\$ 5,695	金属加工油剤の 製造・販売	100.0	役員の兼任等…3名 出向…4名
QualiChem, Inc.	米国 バージニア州 セイラム市	千US\$ 3,018	金属加工油剤の 製造・販売	100.0 (81.06)	役員の兼任等…2名
ユシロドブラジル インダストリアケミカLtda. (注2)	ブラジル国 サンパウロ州 カサパバ市	千R\$ 5,789	金属加工油剤の 製造・販売	100.0	出向…2名
ユシロメキシコS. A. de C. V. (注2)	メキシコ国 グアナフアト州	千US\$ 9,464	金属加工油剤の 製造・販売	100.0 (0.1)	役員の兼任等…3名 出向…3名 資金の貸付あり
上海尤希路化学工業有限公司 (注2)	中国上海市 宝山区	千US\$ 8,800	金属加工油剤の 製造・販売	55.0	役員の兼任等…2名 出向…3名
啓東尤希路化学工業有限公司 (注2)	中国江蘇省 啓東市	千US\$ 4,880	金属加工油剤の 製造・販売	55.0	役員の兼任等…2名
広州尤希路油剤有限公司 (注2)	中国広州市 南沙開発区	千US\$ 4,800	金属加工油剤の 製造・販売	100.0 (100.0)	出向…1名
泰興西碧化学有限公司	中国江蘇省 泰興市	千元 9,421	化学薬品の販売 等	100.0 (70.0)	役員の兼任等…1名
ユシロマレーシアSdn. Bhd.	マレーシア国 セランゴール州 プジョン	千RM 6,500	金属加工油剤の 製造・販売	100.0	役員の兼任等…2名 出向…1名
ユシロ (タイランド) Co., Ltd.	タイ国 チョンブリ県	千THB 142,223	金属加工油剤の 製造・販売	87.4	役員の兼任等…1名 出向…6名
Siam Cee-Bee Chemical Co., Ltd.	タイ国 チョンブリ県	千THB 129,000	化学薬品の 製造・販売等	100.0 (100.0)	役員の兼任等…1名
ユシロインディア カンパニーPvt. Ltd. (注2)	インド国 ハリヤナ州 グルガオン	百万RS 648	金属加工油剤の 製造・販売	99.9 (0.1)	役員の兼任等…2名 出向…3名 資金の貸付あり
PT. ユシロインドネシア (注2)	インドネシア国 西ジャワ州 カラワン県	千US\$ 7,500	金属加工油剤の 製造・販売	85.0	役員の兼任等…2名 出向…3名
(持分法適用関連会社)					
汎宇化学工業㈱	韓国 ソウル特別市	百万W 9,438	金属加工油剤の 製造・販売	34.8	—
㈱汎宇	韓国 ソウル特別市	百万W 4,721	金属加工油剤の 製造・販売	44.9	—
三宜油化股份有限公司	台湾台北市	千NT\$ 29,850	金属加工油剤の 製造・販売	37.5	役員の兼任等…1名

- (注) 1 「議決権の所有割合」欄の()は、間接所有割合であります。
 2 特定子会社に該当しております。
 3 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
 4 ユシロマニュファクチャリングアメリカInc. 及び上海尤希路化学工業有限公司については、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。
 主要な損益情報等は、次のとおりであります。

名称	売上高 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	純資産額 (百万円)	総資産額 (百万円)
ユシロマニュファクチャリング アメリカInc.	3,878	231	155	7,046	7,488
上海尤希路化学工業有限公司	4,251	410	371	2,665	3,164

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(2019年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(名)
日本	445
南北アメリカ	236
中国	196
東南アジア/インド	157
合計	1,034

(注) 従業員数は就業人員数であります。

(2) 提出会社の状況

(2019年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
日本	311	42.7	17.9	6,751

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、各地域に支部をもつ単一組織で1954年に結成され、現在は全日産・一般業種労働組合連合会に加盟しております。2019年3月31日現在の組合員数は、217人で部課長及び職務上非組合員であることを要するものを含んでおりません。労使の関係は安定しており特記すべき事項はありません。

子会社については組合は結成されていませんが、労使の関係は安定しており特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針

当社は創業以来70有余年、「共々の道」という理念を掲げ、事業に取り組んでおります。これは、企業は社会と共に、お客様と共に、さらには社員と共に歩んでこそ株主に繋がる皆様のためになり、企業価値向上に繋がるという考えであります。

この不易の理念を踏まえ、当社は次の三つの経営理念を定めております。

- ① お客様に最良の商品とサービスを提供する。
- ② 事業の発展を通じ、企業価値の永続的な向上を図る。
- ③ 社員が思う存分にその能力を発揮できる活力ある職場を作る。

(2) 経営戦略と対処すべき課題

① 事業環境と当社グループの対応

当社の主要顧客が属する自動車産業の国内市場は、高齢化及び若年層の自動車離れや生産拠点の海外移転も進み、頭打ちの状態が続いております。一方、海外市場は拡大基調にあり、当社グループは、2014年度より取り組んできました第17次中期経営計画の初年度に、インド及びメキシコで工場を立ち上げ、また2年目の2015年度に日本シー・ビー・ケミカル社を当社グループに加えるなど事業の強化・拡大を図ってきました。

2017年4月からの第18次中期経営計画では、持続的成長を実現するため、市場が拡大する地域へ積極的な経営資源の投入を継続し、昨年8月には米国QualiChem社の全株式を購入する等グローバルでの販売力・技術力強化及び戦略的投資により当社グループの総合力強化を図っております。

② 基本方針

(a) グローバルでの販売力強化

拡大する海外市場に対応するための人員強化や国内及び海外拠点での販売網を構築することで販売力強化につなげ、事業拡大を加速させます。

(b) コア事業での競争力強化

金属加工分野での技術提案力をより強化し、顧客満足度の向上及び付加価値向上を図り、利益ある事業拡大につなげます。また、戦略的投資により事業強化を行います。

(c) グループ間シナジーを最大限に発揮できる体制構築

当社グループが持つ情報を積極的に活用し、経営の効率化とスピードアップによりグループ間のシナジーがより発揮できる体制を構築します。

③ 基本戦略

(a) 海外事業戦略

- (イ) 営業人員増強及び販売店・代理店網の整備による販売力強化
- (ロ) 国内を含む会社間での情報の積極的活用による業務の効率化
- (ハ) アメリカ、中国、東南アジアを中心に販売拠点を拡充

(b) 国内事業戦略

- (イ) 販売チャンネルの強化
- (ロ) 素形材加工油剤分野の拡販
- (ハ) コスト競争力強化を目的としたグローバル製造ラインの構築
- (ニ) 工具メーカー・機械メーカーとの連携及び大学と共同研究推進

(c) 戦略的投資

- (イ) 日本及び北米を中心にアライアンス、M&Aによる事業強化・拡大の実施

(d) 新規事業戦略

- (イ) 自己修復性ポリマーゲルの事業化

④ 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、経営指標として、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益を重視しております。2018年11月7日に公表した業績予想に対する実績値の状況は以下のとおりであります。原材料価格高騰、M&A関連費用等の影響により、利益は予想を下回りました。

指標	2019年3月期 業績予想	2019年3月期 実績値	達成度
売上高	35,000百万円	35,170百万円	100.5%
営業利益	2,400百万円	2,076百万円	86.5%
経常利益	3,000百万円	2,634百万円	87.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,000百万円	1,724百万円	86.2%

(3) 株式会社の支配に関する基本方針

① 会社の支配に関する基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針として、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社グループの企業価値・株主共同の利益を継続的かつ安定的に確保し、向上していくことを可能とする者である必要があると考えております。

当社は、金融商品取引所に株式を上場している者として、市場における当社株式の自由な取引を尊重し、特定の者による当社株式の大規模買付行為であっても、当社グループの企業価値・株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。また、最終的には株式の大規模買付提案に応じるかどうかは株主の皆様のご決定に委ねられるべきだと考えています。

しかしながら、株式の大規模買付行為の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益を毀損するもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、株主や対象会社が株式の大規模買付行為の内容等について検討しあるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が株式の大規模買付提案に係る条件よりも有利な条件をもたらすために大規模買付提案者との協議・交渉を行うことを必要とするもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上に資さないものも少なくありません。

当社は、自動車業界とその関連業界及びビルメンテナンス業界に対して高品質の製品と技術サービスを提供することで、ユーザー各社から高い信頼を得ている専門メーカーです。特に主力となる金属加工油剤関連事業においては、主要ユーザーである自動車業界の海外進出にもグループ各社を通じて対応する等国内外において展開を拡大しつつあります。これらを踏まえ、当社は、当社の企業価値の源泉が、長年にわたって独自に蓄積してきたノウハウ及び株主の皆様、従業員、取引先、顧客、地域社会、その他の当社の利害関係者との良好な関係性にあると考えております。したがって、大規模買付行為を行う者が、このような当社の企業価値の源泉を十分に理解した上で、これらを中期的に確保し、向上させるのでなければ、当社グループの企業価値・株主共同の利益が毀損されることになりかねません。

当社は、このような当社グループの企業価値及び株主共同の利益を毀損する大規模買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大規模買付行為に対しては必要かつ相当な対抗手段を講じることにより、当社の企業価値及び株主共同の利益を確保する必要があると考えています。

② 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組み

当社は、2018年6月26日開催の第85回定時株主総会において、従前の当社株式に係る買収行為への対処方針（買収防衛策）を修正したうえで継続することを株主の皆様にご承認いただきました。（以下、修正後の当社株式等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）を「本プラン」といいます。）

本プランは、大規模買付者に対して事前に大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報及び考慮・交渉のための期間の確保を求めることによって、当該大規模買付行為に応じるべきか否かを株主の皆様が適切に判断されること、当社取締役会が企業価値諮問委員会の勧告を尊重しつつ、当該大規模買付行為に対する賛否の意見または代替案を株主の皆様に対して提示すること、あるいは、株主の皆様のために大規模買付者との交渉を行うこと等を可能とし、もって当社の企業価値及び株主の皆様との利益の確保・向上を目的として導入されたものです。

なお、本プランの詳細につきましては、当社ホームページをご参照ください。

(https://www.yushiro.co.jp/app/news_view.php?id=qT)

③ 具体的取り組みに対する当社取締役の判断及びその理由

本プランは当社株式に対する買付等が行われた際に、当社の企業価値・株主共同の利益を確保するための枠組みであり、まさに上記当社の基本方針に沿うものです。特に本プランについては経済産業省及び法務省が2005年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則の要件を充足していること、第85回定時株主総会において株主の皆様への承認を得ていること、一定の場合に株主意思確認総会において株主意思を確認することとしていること、及び取締役の任期は1年であり、また当社取締役会によりいつでも本プランを廃止できるとされていること等株主意思を重視するものであること、独立性の高い企業価値諮問委員会が設置され、本プランの発動に際しては必ず企業価値諮問委員会の判断を経ることが必要とされていること、企業価値諮問委員会は当社の費用で第三者専門家を利用し助言を受けることができるとされていること等により、その公正性・客観性が担保されており、企業価値・株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経済状況に係るリスク

当社グループの重要な顧客である自動車関連業界の需要は、国または地域の経済状況の影響を受けます。従って、日本、北米、南米、アジアを含む主要市場における景気後退や需要減少は、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 関係会社に係るリスク

海外関係会社におきましては、対象国それぞれに政治・経済・法律等のカントリーリスクの発生や予期せぬ訴訟が発生することが懸念されますが、このことにより当社グループの経営成績が悪影響を受ける可能性があります。

(3) 新製品に係るリスク

独自性のある製品を開発し競合他社との差別化を図ることで、注力するアルミ離型剤、塑性加工油剤、洗浄剤の各分野における新製品群が将来の成長性、収益性の向上に寄与するものと考えております。しかしながら市場から支持される新製品や新技術を正確に予測出来るとは限らず、また事業再編により市場を喪失することも考えられます。このような場合には、今後の成長と収益に陰りが生じ、投下資金の負担が業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 原料確保と購入に伴うリスク

当社製品の製造に必要な購入原料の大半は、石油化学品と天然油脂化学品であります。石油化学品の原料である原油の価格は大きく変動する可能性があります。また、天然油脂化学品の原料である動植物油脂の大半は輸入に依存しており、世界相場の変動により、製品原価に影響を及ぼす可能性があります。

また、中国等新興国の需要増加による化学品の世界的な供給不安の影響、また設備の老朽化による化学工場の事故、操業停止が頻発していることが、原料供給を不安定にする可能性があります。

(5) 災害、事故等に関するリスク

大規模な自然災害や重大な事故により当社グループの生産設備が被害を受けた場合には事業活動が制約を受け、業績等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(6) 環境規制に関するリスク

当社グループは環境関連法規の遵守に努めておりますが、水質汚濁防止法や廃棄物の処理及び清掃に関する法律の改正等により当社グループの事業活動に制約を受け、業績等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(7) 資産価格の下落に関するリスク

当社グループが保有している資産について時価下落・収益性の低下等に伴い資産価値が下落した場合は、当社グループの業績と財務状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(8) 為替変動に関するリスク

当社グループには海外に所在する関係会社が含まれております。よって為替レートの変動が当社グループの業績等に影響を及ぼすことがあります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」といいます。）の状況の概要は以下のとおりであります。

① 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における世界経済は、緩やかではありますが拡大基調を維持しております。しかし米中対立や米国内での政治対立、英国のEU離脱問題等の政治・外交的な問題が世界経済に影響を及ぼしております。また中国の景気減速が徐々に新興国にも波及しており、不透明感は更に深まる状況にあります。同様に日本経済も底堅い成長は続けているものの外需の減速を受け不透明感が高まっております。

このような環境下、売上高は好調な日系の自動車生産を背景に昨年8月から当社グループの一員となった米国QualiChem社の影響もあり、前期比11.4%増の35,170百万円となりました。しかしコスト面において全ての拠点で販売製品の原材料である鉱油の価格や化成品の価格が前期と比較して上昇し、それを製品売価に転嫁しきれず利益を大きく押し下げる要因となりました。その結果、営業利益は前期比17.0%減の2,076百万円、経常利益は前期比18.8%減の2,634百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比22.6%減の1,724百万円となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(a) 日本

堅調な国内自動車生産の影響を受け既存顧客への販売増等によりセグメント売上高は、前期比6.5%増の17,965百万円となりました。

セグメント利益は原材料費増加を製品売価に転嫁しきれず、前期比10.8%減の831百万円となりました。

(b) 南北アメリカ

既存の米国子会社は拡販に努めたものの日系自動車生産減の影響で前期並みの実績ではありましたが、昨年8月から当社グループの一員となった米国QualiChem社の実績及びメキシコ、ブラジルの子会社での増収によりセグメント売上高は前期比32.0%増の7,537百万円と前期を大きく上回りました。

しかしセグメント利益は、QualiChem社の利益貢献はありましたがブラジルでのリアル安に伴う原材料価格高騰及び米国子会社におけるM&A関連費用（159百万円）により前期比26.0%減の396百万円となりました。

(c) 中国

中国国内における2018年度の自動車生産台数は減少しましたが、日系自動車メーカーは好調を維持し前期より増加しております。その影響もあり売上高は前期比8.7%増の4,880百万円となりました。

セグメント利益は、原材料費及び人件費の増加により前期比11.4%減の441百万円となりました。

(d) 東南アジア／インド

各拠点とも日系自動車メーカーの生産台数増を背景に順調に業績を伸ばしており、その結果セグメント売上高は前期比6.4%増の4,787百万円となりました。

セグメント利益は、原材料価格高騰等の影響もありましたが前期比1.4%増の535百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における、現金及び現金同等物の残高は、6,947百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,135百万円減少しました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により2,121百万円の収入超過となりました。これは、法人税等の支払額745百万円、たな卸資産の増減額599百万円がありましたが、税金等調整前当期純利益2,616百万円、減価償却費923百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により6,510百万円の支出超過となりました。これは、定期預金の払戻による収入394百万円がありましたが、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出6,226百万円、有形固定資産の取得による支出674百万円、定期預金の預入による支出112百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により3,500百万円の収入超過となりました。これは、配当金の支払額678百万円、長期借入金の返済による支出561百万円、非支配株主への配当金の支払額252百万円がありましたが、長期借入れによる収入5,102百万円によるものであります。

③ 生産、受注及び販売の実績

(a) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前期比(%)
日本	17,759	106.4
南北アメリカ	7,710	136.8
中国	5,927	105.8
東南アジア／インド	4,863	108.6
計	36,261	111.9

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しておりません。

2 金額は販売価格によります。

3 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(b) 受注状況

当グループの生産は全量見込生産を行っております。

(c) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前期比(%)
日本	17,965	106.5
南北アメリカ	7,537	132.0
中国	4,880	108.7
東南アジア/インド	4,787	106.4
合計	35,170	111.4

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

① 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されており、重要な会計方針につきましては、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しているのとおりであります。この連結財務諸表の作成にあたっては、会計基準の範囲内で一定の見積りがなされ、引当金の計上等の数値に反映されております。これらの見積りについては、必要に応じて見直しを行っておりますが、不確実性があるため、実際の結果が見積りと異なる場合があります。

② 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

(a) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前期末に比べ1.7%増加し、19,279百万円となりました。主な要因として、現金及び預金が1,294百万円減少し、一方、受取手形及び売掛金が597百万円、原材料及び貯蔵品が565百万円、商品及び製品が282百万円、その他の流動資産が173百万円増加したことが挙げられます。

固定資産は、前期末に比べ20.0%増加し、29,678百万円となりました。主な要因として、投資有価証券が721百万円、長期預金が163百万円、保険積立金が150百万円減少し、一方、QualiChem社買収によるのれん等の増加で無形固定資産が5,695百万円、機械装置及び運搬具が106百万円、建物及び構築物が95百万円増加したことが挙げられます。

この結果、総資産は、前期末に比べて12.1%増加し、48,958百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前期末に比べ14.3%増加し、9,519百万円となりました。主な要因として、賞与引当金が110百万円、未払法人税等が93百万円減少し、一方、短期借入金が625百万円、支払手形及び買掛金が583百万円、その他の流動負債が110百万円増加したことが挙げられます。

固定負債は、前期末に比べ142.4%増加し、7,646百万円となりました。主な要因として、長期借入金が3,911百万円、繰延税金負債が773百万円増加したことが挙げられます。

この結果、負債合計は、前期末に比べて49.5%増加し、17,166百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は前期末に比べ1.3%減少し、31,791百万円となりました。主な要因として、利益剰余金が1,045百万円増加し、一方、その他有価証券評価差額金が485百万円減少し、為替換算調整勘定が964百万円変動したことが挙げられます。

(b) 経営成績の分析

当連結会計年度における経営成績の概況につきましては、「(1)経営成績等の状況の概要 ①財政状態及び経営成績の状況」をご参照ください。なお、連結損益計算書の主要項目ごとの前連結会計年度との主な増減は、次のとおりであります。

(イ) 売上高

当連結会計年度における売上高は、前連結会計年度と比較して3,605百万円増加し、35,170百万円（前期比11.4%増）となりました。

(ロ) 営業利益

当連結会計年度における営業利益は、前連結会計年度と比較して425百万円減少し、2,076百万円（前期比17.0%減）となりました。

(ハ) 経常利益

当連結会計年度における経常利益は、前連結会計年度と比較して609百万円減少し、2,634百万円（前期比18.8%減）となりました。

(ニ) 親会社株主に帰属する当期純利益

当連結会計年度における親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度と比較して503百万円減少し、1,724百万円（前期比22.6%減）となりました。

(c) キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析につきましては、「(1)経営成績等の状況の概要 ②キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

資本の財源及び資金の流動性については、利益の確保、在庫の圧縮等によりキャッシュ・フローの安定的な確保に努めております。また、当社グループを取り巻く環境や金融情勢等を総合的に勘案し、それぞれの時点において最も有利で最適と考えられる資金調達を行っております。

4 【経営上の重要な契約等】

当社は、当社の連結子会社であるユシロマニュファクチャリングアメリカInc.を通じ、QualiChem, Inc.の全株式を取得することにより、QualiChem, Inc.を子会社化することを決定し、2018年8月7日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項（企業結合等関係）」に記載のとおりであります。

5 【研究開発活動】

2018年度は、第18次中期3ヵ年計画の2年目であり、この中期計画終了時点で「グローバル10（世界市場シェア10%、当社調べ）」達成を目標に掲げ、新製品の開発に取り組んでいます。2015年度から「新分野への挑戦」の取り組みを始動し、その成果の1つに切断傷を修復可能な“自己修復性ポリマーゲル「ウィザードゲル」”が挙げられます。2018年6月より、ウィザードゲルの素となる液体製品：①主材、②乾燥防止剤、③硬化剤の3製品からなる「ウィザードパック」の販売を開始しました。これらを混ぜ合わせることで、ウィザードゲルを様々な形状に作製することができます。また、2019年1月開催の国際展示会nano tech 2019にウィザードゲルを出展し、主催者より「産学連携賞」の表彰を受けました。現在、多岐にわたる分野の顧客で実装に向けた研究開発が進められており、その中でも医師や看護師、救急救命士といった人命に係る専門家が手術や処置の研修・シミュレーションで使用する「医療研修用臓器モデル」への実装が検討されています。もちろん医療分野に限らず、さまざまな用途での実装が期待できる画期的な新素材であることから、近い将来「ウィザードゲル」の特長を生かした各種商品が市場に展開されることを目標に、日々R&D活動を推進しています。

当連結会計年度において、国内で研究開発に携わるスタッフは90名であり、当社従業員の29%に当たります。アメリカ、メキシコ、ブラジル、中国、タイ等の海外グループ各社との連携を密にするため、上記国内スタッフ以外に研究開発部門から10名を outwarder として各社へ派遣しております。現在保有する特許は、国内57件、海外21件になります。当期の特許登録数は、国内6件、海外3件を数え、知的財産権の確保及び活用に注力いたしました。当連結会計年度における研究開発費の総額は、1,773百万円であります。

(1) 日本

当社は、個々の顧客ニーズを的確に捉え、要望に合致した仕様に調整した製品を提供する「カスタマーインティマシー戦略」を得意としております。例えば、切削加工分野では急成長を遂げている航空機分野で必要とされる難削材向けに工具寿命延長を謳った新規水溶性切削油剤を開発し、市場展開を行っております。また、塑性加工&鋳造分野では、伸線加工や鍛造用油剤等の高性能化学品の開発は勿論の事、特にアルミダイカスト分野において金型へ付着したアルミ離型剤被膜を可視化する技術を2018年度に開催されたダイカスト展示会で発表しました。今まで困難であったアルミ離型剤の付着分布が可視化されたことで、最適なスプレー量調査や付着ムラ解消に有効であると多く需要家から反響を頂いております。ビルメンテナンス関連製品も、他社製品との差別化を意識した新製品開発を行っています。当連結会計年度における研究開発費の金額は、1,185百万円であります。

(2) 南北アメリカ、中国、東南アジア／インド

東南アジア及びインドにおける「カスタマーインティマシー戦略」では、タイにあるアセアンテクニカルセンターが積極的に現地生産拠点のニーズを的確に把握した戦略的製品開発をしております。米国においては、新たに当社グループの一員となった「QualiChem社」と技術交流を開始し、得意分野の技術の融合を図り、新たな画期的製品開発を目指してまいります。当連結会計年度における研究開発費の金額は、588百万円であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）の設備投資は、生産設備の合理化・研究開発機能の充実・強化などを行い、全体で638百万円の設備投資を実施しております。

(1) 日本

当連結会計年度の主な設備投資は、工場における製造設備の合理化・更新、研究開発機能の充実・強化を中心に416百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

(2) 南北アメリカ

当連結会計年度の設備投資は、ユシロマニュファクチャリングアメリカInc. での研究開発機能の充実・強化を中心に107百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

(3) 中国

当連結会計年度の設備投資は、研究開発機能の充実・強化を中心に65百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

(4) 東南アジア／インド

当連結会計年度の設備投資は、ユシロ（タイランド）Co.,Ltd. 等での研究開発機能の充実・強化を中心に48百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

(2019年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
兵庫工場 (兵庫県神崎郡福崎町)	日本	金属加工油剤・ ビルメンテナンス製品 製造設備	126	107	626 (44)	30	891	42
富士工場 (静岡県駿東郡小山町)	日本	金属加工油剤・ ビルメンテナンス製品 製造設備	595	158	2,531 (76)	18	3,303	46
神奈川テクニカルセンター (神奈川県高座郡寒川町)	日本	研究開発施設設備	783	0	46 (17)	161	992	76
本社 (東京都大田区)	日本	その他設備	115	—	79 (1)	68	262	69

- (注) 1 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
 2 帳簿価額のうち「その他」は、ソフトウェア、工具、器具及び備品等であります。
 3 上記には在外子会社が管理する社宅等福利厚生施設を含めております。

(2) 国内子会社

(2019年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
日本シー・ビー・ ケミカル㈱	大船工場 (神奈川県 鎌倉市)	日本	化学薬品 製造設備	209	27	1,074 (5)	21	1,332	71

- (注) 1 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
 2 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品等の合計であります。

(3) 在外子会社

(2018年12月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
ユシロマニュファクチャ リングアメリカInc.	米国インディア ナ州シェルビー ビル市	南北アメリカ	金属加工油剤 製造設備	391	131	10 (37)	19	552	52
QualiChem, Inc.	米国バージニア 州セイラム市	南北アメリカ	金属加工油剤 製造設備	341	200	49 (10)	30	622	87
上海尤希路化学工業 有限公司	中国上海市 宝山区	中国	金属加工油剤 製造設備	121	97	— (—)	14	233	135
啓東尤希路化学工業 有限公司	中国江蘇省 啓東市	中国	金属加工油剤 製造設備	423	15	— (—)	132	571	52
ユシロ (タイランド) Co., Ltd.	タイ国 チョンブリ県	東南アジア/ インド	金属加工油剤 製造設備	267	28	109 (11)	6	411	46

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品及び建設仮勘定等の合計であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
啓東尤希路 化学工業 有限公司	中国江蘇省 啓東市	中国	金属加工油剤 製造設備	729	602	自己資金、 増資資金 (注) 2	2010年8月	2019年12月	年間 8,000トン

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 啓東尤希路化学工業有限公司の増資資金は、当社及び合弁会社からの投資資金であります。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	29,180,000
計	29,180,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,900,065	13,900,065	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	13,900,065	13,900,065	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2014年4月～ 2015年3月 (注)	△1,300,000	13,900,065	—	4,249	—	3,994

(注) 自己株式の消却に伴う減少であります。

(5) 【所有者別状況】

(2019年3月31日現在)

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	21	28	61	73	1	4,122	4,306	—
所有株式数(単元)	—	41,250	1,021	24,312	14,624	4	57,727	138,938	6,265
所有株式数の割合(%)	—	29.68	0.74	17.49	10.53	0.00	41.56	100	—

(注) 自己株式322,724株は、「個人その他」に3,227単元、「単元未満株式の状況」に24株含めて記載しております。

なお、自己株式322,724株は株主名簿記載上の株式数であり、2019年3月31日現在の実質的な所有株式数も同一であります。

(6) 【大株主の状況】

(2019年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命証券管理部内	1,057	7.78
ユシロ化学工業取引先持株会	東京都大田区千鳥2丁目34番16号	889	6.55
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	622	4.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	580	4.27
スズキ株式会社	静岡県浜松市南区高塚町300番地	549	4.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	398	2.93
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	316	2.32
ユシロ化学工業従業員持株会	東京都大田区千鳥2丁目34番16号	302	2.22
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台3丁目9番地	286	2.10
BBH BOSTON FOR NOMURA JAPAN SMALLER CAPITALIZATION FUND 620065(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	180 MAIDEN LANE, NEW YORK, NEW YORK 10038 U.S.A.	249	1.83
計	—	5,251	38.67

(注) 1 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

2 上記のほか当社所有の自己株式322千株があります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

(2019年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 322,700	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,571,100	135,711	—
単元未満株式	普通株式 6,265	—	—
発行済株式総数	13,900,065	—	—
総株主の議決権	—	135,711	—

(注) 「単元未満株式」には当社所有の自己株式24株が含まれております。

② 【自己株式等】

(2019年3月31日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ユシロ化学工業株式会社	東京都大田区千鳥 2丁目34番16号	322,700	—	322,700	2.32
計	—	322,700	—	322,700	2.32

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	142	208,993
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	322,724	—	322,724	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、グローバルな事業展開及び連結業績を勘案した利益還元を当社の利益配分に関する基本方針としており、株主の皆様に対しても企業価値向上の為の設備投資を考慮した上で利益還元することとしております。

中間配当と期末配当の年2回の配当を行うこととしており、これらの配当は、定款に基づき、取締役会で決議しています。

この方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株につき25円とさせていただきます。また、中間期において、中間配当金1株につき20円を実施いたしておりますので、当期の年間配当金は1株につき45円となります。

なお、当社は剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、取締役会の決議により定める旨を定款第33条に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たりの配当額 (円)
2018年11月7日 取締役会決議	271	20
2019年5月27日 取締役会決議	339	25

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

①コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「企業理念『共々の道』に基づいた信頼される商品を顧客に提供して、企業としての収益力を高め、株主の利益を最大にすることを目的とする」との基本認識とコンプライアンスの徹底をコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方として、株主の権利を重視し、また、社会的信頼に応える経営を行ってまいります。

「基本方針」

- (a) 株主の権利・平等性の確保に努めます。
- (b) 株主以外のステークホルダー（お客様、お取引先様、債権者、地域社会、従業員等）との適切な協働に努めます。
- (c) 適切な情報開示と透明性の確保に努めます。
- (d) 取締役会において透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定が行われるよう、取締役会の役割・責務の適切な遂行に努めます。
- (e) 持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するように、株主との建設的な対話に努めます。

②企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

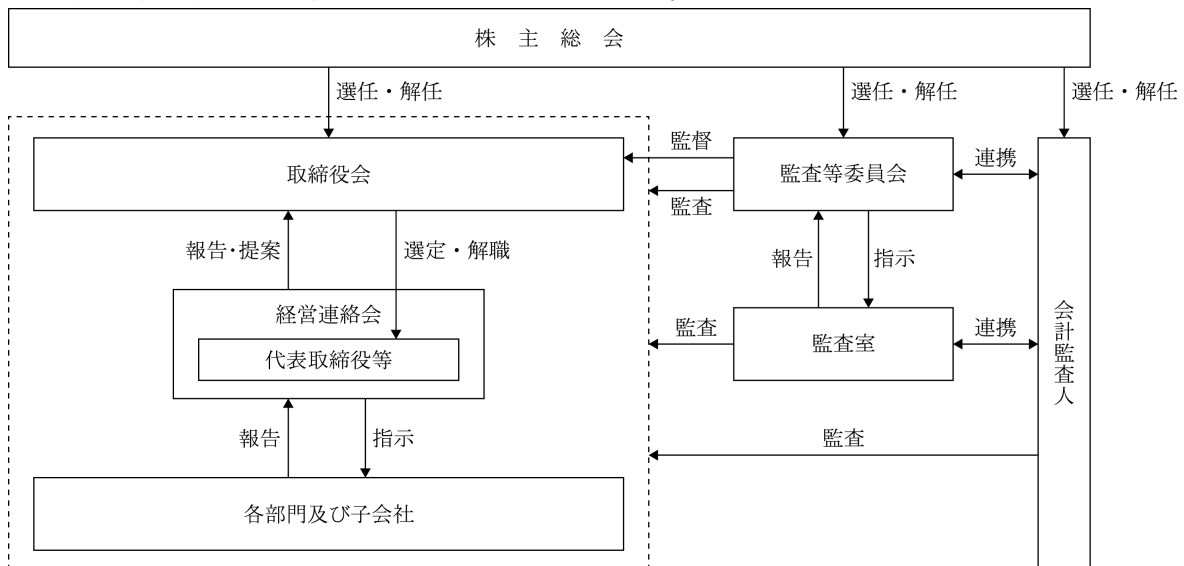
当社の企業統治の体制は、監査等委員会設置会社制度を採用しております。当社の監査等委員会は、社外取締役3名を含む4名の監査等委員である取締役によって構成され、業務執行取締役に対する監査・監督機能の強化を図り、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の充実に努めてまいります。

取締役会は、監査等委員でない取締役7名と上記の監査等委員である取締役4名の11名で構成され、重要性の高い業務執行の意思決定機能を担いつつ、上記の監査等委員会による適切な監査・監督を受けることで、取締役会によるガバナンスの実効性を確保してまいります。

経営連絡会は、監査等委員でない取締役7名と執行役員7名の計14名で構成され、取締役会の決議した経営方針に基づき、迅速化及び機動的な業務執行を行います。

現時点における職務執行の適正を確保するために有効に機能しているため、上記のガバナンス体制を採用しております。

当社の企業統治の体制の模式図は以下のとおりであります。



③企業統治に関するその他の事項

(内部統制システムの整備状況)

当社は、内部統制システムを以下のとおり整備しております。

(a) 当社経営理念

当社は創業以来70有余年、「共々の道」という理念を掲げ、事業に取り組んでおります。これは、企業は社会と共に、お客様と共に、さらには社員と共に歩んでこそ株主に繋がる皆様のためになり、企業価値向上に繋がるという考えであります。

この不易の理念を踏まえ、当社は次の三つの経営理念を定めております。

- (イ) お客様に最良の商品とサービスを提供する。
- (ロ) 事業の発展を通じ、企業価値の永続的な向上を図る。
- (ハ) 社員が思う存分にその能力を発揮できる活力ある職場を作る。

(b) 内部統制システムの基本方針

(イ) 当社及び当社子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- 1) 当社は、当社及び当社子会社の取締役及び使用人が法令及び定款を遵守し、健全な社会規範の下にその職務を遂行するための行動規範として、「ユシログループ企業行動憲章」を制定し、「倫理規範」及び「行動基準」等の規定を定める。
- 2) 当社の監査等委員及び監査室は、当社及び当社子会社に対する監査を実施する。
- 3) 内部統制委員会の中にコンプライアンス諮問機関を設置し、各部署及び当社グループの各社にコンプライアンス担当者及び責任者を配置することにより、コンプライアンス活動を推進する。
- 4) 各部署の業務や使用人の役職等に応じたコンプライアンス研修を継続的に実施することにより、コンプライアンス意識の醸成を図る。
- 5) 外部の専用通報窓口に通報することができる内部通報制度を整備し、不祥事の未然防止及び早期発見を図る。
- 6) 当社及び当社子会社は、反社会的勢力との関係断絶及び不当要求拒絶の姿勢を明確にし、これらを徹底する。

(ロ) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会その他の重要な会議の議事録のほか、各取締役が稟議規定等に基づいて決裁した文書等、取締役の職務の執行に係る情報については、文書管理規定に従い、文書又は電磁的記録として、適切に保存及び管理する。取締役及び監査等委員は、これらの文書等を常時閲覧することができる。

(ハ) 当社及び当社子会社の損失の危険の管理に関する規定その他の体制

- 1) 当社及び当社子会社の経営上の重要事項に関して、取締役会規定等に基づき当社の取締役会その他の重要な会議に付議し、リスクを評価、検討した上で決定する。
- 2) リスク管理に関する取り組みを推進する担当役員を任命し、当該担当役員を中心に、リスク情報を収集・評価し、重大なリスクについては速やかに担当部門に対策を指示すると共に、その進捗状況をモニタリングする。
- 3) 大規模自然災害や感染症等の会社事業に重大かつ長期にわたり影響を与える不測の事態や危機の発生に備え、「事業継続計画（BCP）」を定め、これを当社及び当社子会社の役員及び使用人に周知し、事業中断等のリスクを可能な限り低減する体制を整える。

(ニ) 当社及び当社子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- 1) 当社は、将来の事業環境を踏まえ、三事業年度を期間とするグループの中期経営計画を策定し、当該中期経営計画を具体化するために、事業年度ごとに予算を立案し、全社的な目標を設定する。当社の各部門は、当該目標達成に向けた具体的目標を事業年度ごとに立案し、これを実行する。
- 2) 当社は、当社子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われるために、当社取締役会により策定された中期経営計画に基づき、当社子会社ごとの業績目標と予算の設定を行い、その進捗等を管理すると共に、当社から当社子会社に対して助言・指導等を行う。
- 3) 当社は、毎月1回定例取締役会を開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、経営上の重要事項の決定及び取締役の職務執行の監督を行うと共に、監査等委員は、監査等委員でない取締役の職務執行を監査・監督する。
- 4) 取締役会の機能強化及び経営効率の向上を図るために、業務執行取締役及び執行役員は、情報共有と意見交換を目的とした会議を月1回以上開催し、業務執行に関する基本事項及び重要事項について十分な討議を行う。

- 5) 当社は、取締役会の職務権限と担当業務を明確にするために、取締役会規定のほか、組織規定等を制定すると共に、社内規定に基づいて権限の委譲を行い、取締役が職務を効率的に執行できるようにする。
- (ホ) 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- 1) 当社子会社の経営について、その自主性を尊重しつつも、当社子会社の経営上の重要事項に関しては、社内規定に基づき当社取締役会の事前承認又は当社取締役会への報告等を求めると共に、当社子会社から事業計画及び業務執行の状況等の報告を定期的を受け、当社子会社の業務の適正性を確認する。
 - 2) 監査等委員及び監査室は、当社子会社の監査及び調査を実施する。
 - 3) 当社子会社に対する当社の企業行動憲章、倫理規範及び行動基準等の周知徹底に努め、当社の企業倫理及びコンプライアンスの教育・啓蒙・浸透を図る。
 - 4) 当社子会社における品質、災害、環境、情報漏洩等のリスクを管理し、そのリスクに対しの確に対応できる体制を整える。
- (ヘ) 当社の監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人に関する事項、当該取締役及び使用人の他の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性に関する事項並びに監査等委員会の当該取締役及び使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
- 1) 監査等委員会の職務は、監査室がこれを補助する。監査室の使用人の人事異動、懲戒処分は、監査等委員会の事前の同意を要するものとすると共に、人事考課は監査等委員会が行うこととし、取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性を確保する。
 - 2) 監査室は、監査等委員会直属の部門とし、監査室の使用人は、監査等委員会の指揮命令に従う。
- (ト) 当社の監査等委員でない取締役及び使用人が監査等委員会に報告するための体制
- 1) 監査等委員でない取締役は、取締役会において、担当業務の執行状況について定期的に報告する。
 - 2) 当社及び当社子会社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人は、監査等委員又は監査室が事業の報告を求めた場合又は業務及び財産の調査を行う場合、当該調査等に適切に協力する。
 - 3) 当社及び当社子会社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人は、法令等の違反行為等、当社又は当社子会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実が発見された場合、監査等委員会に対して直ちに報告する。
 - 4) 監査室及び内部統制部門は、監査等委員会に対して、当社及び当社子会社の内部監査の進捗、結果その他活動状況について定期的に報告する。
 - 5) 当社及び当社子会社の内部通報制度の担当部署は、内部通報の状況について、監査等委員会に対して適宜報告する。
- (チ) 当社の監査等委員会に報告した者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- 当社は、監査等委員会へ報告した当社及び当社子会社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社及び当社子会社の取締役及び使用人に対して周知徹底する。
- (リ) 当社の監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
- 当社は、監査等委員がその職務の執行に必要な費用を請求したときは、担当部署において審議の上、適切かつ迅速にこれに応じるものとする。

(ヌ) その他当社の監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- 1) 監査等委員会は、代表取締役及び役付取締役並びに会計監査人と意見交換する。
- 2) 当社は、監査等委員会が、監査等委員の職務の執行のために必要な外部専門家の利用を求めた場合、その費用を負担する。

(責任限定契約の内容の概要)

当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、社外取締役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める金額としております。

(取締役会にて決議できる株主総会決議事項)

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段に定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨を定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(取締役の定数)

当社の取締役（監査等委員である者を除く）は11名以内とし、この他監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款に定めております。

(取締役の選任の決議要件)

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

(株主総会の特別決議要件)

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもってこれを行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員状況】

①役員一覧

男性9名 女性2名 (役員のうち女性の比率18%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	大胡 栄一	1956年10月17日生	1981年4月 2005年4月 2006年4月 2008年4月 2009年4月 2009年6月 2010年4月 2011年1月 2011年4月	当社入社 当社技術本部技術1部長 当社営業本部大阪支店長 当社技術本部第1技術部長 当社営業技術統括本部技術本部長兼研究部長 当社取締役営業技術統括本部技術本部長兼研究部長 当社取締役(技術開発部門担当) 当社代表取締役社長(技術開発部門担当) 当社代表取締役社長(現任)	(注) 6	33
常務取締役 IL事業 統括本部長	有坂 昌規	1965年11月21日生	1988年4月 2010年4月 2012年2月 2012年4月 2013年6月 2014年4月 2014年6月 2017年6月	当社入社 当社中日本統括部部長 ユシロ(タイランド)Co.,Ltd.社長 当社アセアン・インド統括責任者 ユシロ(タイランド)Co.,Ltd.社長 当社執行役員アセアン・インド統括責任者 ユシロ(タイランド)Co.,Ltd.社長 当社執行役員IL事業統括本部長 アセアン・インド統括責任者 ユシロ(タイランド)Co.,Ltd.社長 当社取締役IL事業統括本部長 アセアン・インド統括責任者 ユシロ(タイランド)Co.,Ltd.社長 当社常務取締役IL事業統括本部長(現任) アセアン・インド統括責任者(現任)	(注) 6	8
常務取締役 コーポレート統括本部長	菊池 慎吾	1959年5月19日生	1982年4月 2005年4月 2009年4月 2010年4月 2012年4月 2012年6月 2014年4月 2016年6月 2017年6月 2018年6月	当社入社 当社技術本部技術3部長 当社営業技術統括本部技術本部長 ユシロマニュファクチャリングアメリカInc. 副社長 当社グローバル経営企画部長 当社執行役員グローバル経営企画部長 当社執行役員経営企画室長 当社取締役経営企画室長 当社取締役コーポレート統括本部長 当社常務取締役 コーポレート統括本部長(現任)	(注) 6	7
取締役	濱元 伸二	1960年5月27日生	1983年4月 1992年4月 2010年4月 2011年4月 2011年6月 2012年6月 2014年4月 2016年7月 2019年2月	当社入社 ユシロマニュファクチャリングアメリカInc. 出向 当社技術部門第2技術部長 当社執行役員(研究開発部門担当) 当社取締役(研究開発部門担当) 当社取締役(研究開発部門担当) テクニカルセンター長 当社取締役 研究本部長兼テクニカルセンター長 兼ポリーズ事業部管掌 当社取締役(現任) 日本シー・ビー・ケミカル(株)代表取締役社長 (現任) 泰興西碧化学有限公司董事長(現任) Siam Cee-Bee Chemical Co.,Ltd.社長(現任)	(注) 6	9
取締役	石川 拓哉	1960年7月22日生	1987年11月 2008年10月 2011年4月 2014年4月 2017年6月 2018年8月	当社入社 ユシロインディアカンパニーPvt.Ltd.社長 当社執行役員(営業部門担当) 当社執行役員南北アメリカ統括責任者 ユシロマニュファクチャリングアメリカInc. 社長 当社取締役南北アメリカ統括責任者(現任) ユシロマニュファクチャリングアメリカInc. 社長CEO(現任) QualiChem, Inc. CEO(現任)	(注) 6	6

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 研究本部長	高橋 誠司	1967年1月10日生	1992年4月 2006年1月 2012年2月 2014年4月 2016年4月 2016年7月 2017年6月	当社入社 ユシロマニューファクチャリングアメリカInc. 出向 当社営業部門中日本統括部部長 当社執行役員IL事業統括本部西日本事業部長 当社執行役員 IL事業統括本部技術部門担当役員 当社執行役員 IL事業統括本部技術部門担当役員 研究本部長兼テクニカルセンター長 当社取締役 IL事業統括本部技術部門担当役員(現任) 研究本部長兼テクニカルセンター長(現任)	(注) 6	3
取締役	中野 雅文	1955年12月18日生	1979年4月 2006年4月 2010年4月 2012年6月 2013年6月 2015年6月 2018年4月 2019年6月	東洋工業(現 マツダ)入社 同社執行役員防府工場長 同社執行役員広島本社工場長 同社執行役員品質本部長 同社常務執行役員 商品品質・ブランド品質担当 ㈱日本能率協会コンサルティング TPMコンサル ティングカンパニー TPMコンサルタント 同社 TPMコンサルティング事業本部 プロフェッショナルアドバイザー TPMコンサルタント(現任) 当社取締役(現任)	(注) 6	—
取締役 (監査等委員)	飯塚佳都子	1964年12月24日生	1987年4月 1998年4月 2013年4月 2015年6月 2016年6月 2017年2月	㈱三菱銀行(現 ㈱三菱UFJ銀行) 入行 弁護士登録 平川・佐藤・小林法律事務所 (現 シティユーワ法律事務所) 入所 シティユーワ法律事務所パートナー(現任) 日新製糖(株)社外取締役(現任) 当社取締役(監査等委員)(現任) ㈱キューソー流通システム社外監査役(現 任)	(注) 7	—
取締役 (監査等委員)	山口 豊	1950年8月30日生	1976年4月 1998年6月 2001年6月 2002年6月 2008年6月 2010年6月 2015年6月 2016年6月	㈱東栄リーファーライン入社 同社取締役管理部長 同社常務取締役総務部長 同社常務取締役 同社専務取締役 当社補欠監査役 ㈱東栄リーファーライン監査役(現) 当社取締役(監査等委員)(現)	(注) 7	—
取締役 (監査等委員)	小柴 美樹	1968年1月1日生	1993年10月 1998年4月 2017年9月 2017年12月 2018年6月 2018年10月 2018年12月	朝日監査法人(現 有限責任 あずさ監査法 人) 入社 公認会計士登録 ㈱軽子坂パートナーズ入社 ㈱ベアーズ非常勤監査役 当社取締役(監査等委員)(現任) 小柴公認会計士事務所所長(現任) ㈱EduLab社外監査役(現任)	(注) 7	—
取締役 (監査等委員)	山崎 敏男	1952年7月28日生	1975年4月 2003年4月 2004年4月 2006年4月 2008年4月 2012年4月 2013年6月 2016年6月	当社入社 当社技術本部技術第4部長 当社技術本部情報管理部長 当社管理本部資材調達部長 ユシロ(タイランド)Co.,Ltd. 社長 当社研究開発部門技監(理事) 当社研究開発本部技術推進部長付 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注) 7	4
計						72

- (注) 1 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2 取締役 中野雅文氏は、社外取締役であります。
3 取締役 飯塚佳都子、山口豊及び小柴美樹の3氏は、監査等委員である社外取締役であります。
4 小柴美樹氏の戸籍上の氏名は、大鏑美樹であります。
5 取締役 中野雅文氏、監査等委員である取締役 飯塚佳都子、山口豊及び小柴美樹の3氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
6 監査等委員以外の取締役の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

- 7 監査等委員である取締役の任期は、2018年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 8 監査等委員会の体制は、次のとおりであります。
委員長 飯塚佳都子 委員 山口豊、小柴美樹、山崎敏男

②社外取締役

当社は社外取締役1名、監査等委員である社外取締役3名を選任しております。これは、各社外取締役のこれまでの豊富な経験と幅広い見識を当社の経営に反映頂くためであり、取締役会等に出席し社外からの客観的な視点に基づき中立的立場で当社の経営に助言頂くため選任しております。なお、当社は社外取締役を選任するに当たり、下記の独立性基準を設けております。

(社外役員の独立性基準)

ユシロ化学工業株式会社(以下、「当社」といいます。)は、当社における社外取締役(以下、「社外役員」とします。)の独立性の基準を以下のとおり定め、社外役員が以下の事項のいずれにも該当しない場合、当該社外役員は当社からの独立性を有し、一般株主と利益相反が生じるおそれがないものと判断します。

- (a) 当社又は当社子会社(以下、「当社グループ」と総称します。)の業務執行者(注1)又は過去10年間(ただし、10年内のいずれかの時において当社グループの非業務執行者(注2)にあっては、それらの役職への就任の前10年間)において当社グループの業務執行者であった者
- (b) 当社グループを主要な取引先とする者(注3)又はその業務執行者
- (c) 当社グループの主要な取引先である者(注4)又はその業務執行者
- (d) 当社グループの資金調達において必要不可欠であり、代替性がない程度に依存している金融機関その他の大口債権者等。それらの者が法人である場合、当該法人、その親会社、又はその重要な子会社の業務執行者又は非業務執行者
- (e) 当社グループの会計監査人である監査法人に所属する者
- (f) 当社グループから役員報酬以外に多額(注5)の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家又は法律専門家
- (g) 当社グループから多額(注5)の金銭その他の財産上の利益を受けている法律事務所、監査法人、税理士事務所又はコンサルティング・ファーム等の法人、組合等の団体に所属する者
- (h) 当社グループから一定額を超える寄付又は助成(注6)を受けている者(当該寄付又は助成を受けている者が法人、組合等の団体である場合は当該団体の業務執行者)
- (i) 当社の主要株主(注7)(当該主要株主が法人である場合は、当該法人の業務執行者又は非業務執行者)
- (j) 当社グループが主要株主(注7)である会社の業務執行者又は非業務執行者
- (k) 当社グループから取締役又は監査役(常勤・非常勤を問わない)を受け入れている会社又はその親会社若しくは子会社の業務執行者又は非業務執行者
- (l) 過去5年間に於いて、上記(b)から(k)までのいずれかに該当していた者
- (m) 上記(a)から(l)までのいずれかに該当する者(重要な地位にある者(注8)に限る。)の配偶者又は二親等内の親族
- (n) その他当社グループと実質的な利益相反関係が生じる恐れのある者

注1 業務執行者とは、業務執行取締役、執行役、執行役員その他これらに準じるもの及び使用人(本基準において「業務執行者」と総称します。)をいいます。

注2 非業務執行者とは、非業務執行取締役、監査役又は会計参与(本基準において「非業務執行者」と総称します。)をいいます。

注3 当社グループを主要な取引先とする者とは、直近事業年度における当社グループへの製品若しくはサービスの提供額が、当該会社の年間連結売上高の2%以上である者をいいます。

注4 当社グループの主要な取引先である者とは、直近事業年度における当社グループからの製品若しくはサービスの提供額が、当社の年間連結売上高の2%以上である者をいいます。

注5 多額とは、直近事業年度において、個人の場合は年間1,000万円以上、法人、組合等の団体の場合は当該団体の年間連結売上高若しくは年間総収入の2%以上であることをいいます。

注6 一定額を超える寄付又は助成とは、直近事業年度における年間1,000万円を超える寄付又は助成をいいます。

注7 主要株主とは、総議決権の10%以上の議決権を直接又は間接的に保有する株主をいいます。

注8 重要な地位にある者とは、取締役（社外取締役を除く）、監査役（社外監査役を除く）、執行役員等の上級管理職にある使用人をいいます。

・社外取締役である中野雅文氏は、マツダ株式会社において要職を歴任後、株式会社日本能率協会においてはTPMコンサルタント業務に携わり、豊富な経験と高い見識をもとに、取締役会において当社グループの経営に対して適切なご指導・ご助言をいただくことが期待でき、当社の持続的成長と企業価値向上に寄与いただけると判断し、社外取締役として選任しております。また、同氏は、東京証券取引所が定める独立性基準及び当社が定める社外役員の独立性基準の要件を全て満たし、一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、独立役員に指定しております。

・監査等委員である社外取締役の飯塚佳都子氏は、長年の弁護士としての豊富なご経験及び専門的かつ高度なご見識をもとに、取締役会において当社グループの経営に対して適切なご指導・ご助言をいただいております。今後も監査等委員である社外取締役として当社グループに対する監査・監督機能をさらに強化し、当社の持続的成長と企業価値向上に寄与いただけると判断し、引き続き当社の監査等委員である社外取締役に選任しております。また、同氏は、東京証券取引所が定める独立性基準及び当社が定める社外役員の独立性基準の要件を全て満たし、一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、独立役員に指定しております。

・監査等委員である社外取締役の山口豊氏は、企業経営に直接関与されたご経験があり、コーポレート・ガバナンスに関する豊富なご経験と幅広いご見識をもとに、取締役会において当社グループ経営に対して適切なご指導・ご助言をいただいております。今後も監査等委員である社外取締役として当社グループに対する監査・監督機能をさらに強化し、当社の持続的成長と企業価値向上に寄与いただけると判断し、引き続き当社の監査等委員である社外取締役に選任しております。また、同氏は、東京証券取引所が定める独立性基準及び当社が定める社外役員の独立性基準の要件を全て満たし、一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、独立役員に指定しております。

・監査等委員である社外取締役の小柴美樹氏は、長年の公認会計士としての豊富なご経験及び財務・会計に関する専門的かつ高度なご見識をもとに、取締役会においてその専門的見地から当社グループの経営に対して適切なご指導・ご助言をいただいております。今後も監査等委員である社外取締役として当社グループに対する監査・監督機能をさらに強化し、当社の持続的成長と企業価値向上に寄与いただけると判断し、当社の監査等委員である社外取締役に選任しております。また、同氏は、東京証券取引所が定める独立性基準及び当社が定める社外役員の独立性基準の要件を全て満たし、一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、独立役員に指定しております。

・当社は、社外取締役との間において、会社法第427条第1項に基づき同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める金額としております。

③社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

監査等委員である取締役3名を含む監査等委員会は、会計監査人と監査計画・監査実施状況などに関して適宜情報・意見交換を行うなど、緊密な連携を図っております。また、監査等委員会直属の部門である監査室に調査指示などを行いつつ定期報告を受けることとし、監査室に対する指揮命令体制の下、監査の実効性の向上を図っております。

(3) 【監査の状況】

①監査等委員会監査の状況

監査等委員会は、常勤の監査等委員である取締役1名と監査等委員である社外取締役3名の合計4名で構成されています。監査等委員会の監査は、監査等委員会で決定された監査計画・分担に基づき、当社及び当社子会社の取締役・使用人に対する業務・財産の調査をはじめ、取締役会及びその他の社内の重要な会議への出席、関係資料の閲覧、代表取締役・役付取締役、監査等委員以外の社外取締役及び会計監査人との意見交換などを踏まえ、必要に応じて取締役（監査等委員である取締役を除く。）等に報告を求め、又は意見を述べるなど監査等委員である取締役自ら監査を行うと共に、その直属の部門である監査室を通じて、監査を実施しております。

②内部監査の状況等

内部監査体制については、監査室を監査等委員会の下に設置し、業務監査を計画的に各部門及び関係会社に対して実施しております。監査室は法令・定款及び社内規程等の遵守、内部統制の有効性及びリスクマネジメント等の評価・検証などを行い、適正かつ有効に運用されているか調査し、監査等委員会に報告するとともに、被監査部署からは監査結果に対する改善措置を報告させて、監査の実効性を高めるようにしております。

③会計監査の状況

(a)監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

(b)業務を執行した公認会計士

後藤 英之
守谷 義広

(c)監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士6名、会計士試験合格者6名、その他4名となります。

(d)監査法人の選定方針と理由

当社は、会計監査人の選定及び評価に際しては、当社の広範な業務内容に対応して効率的な監査業務を実施することができる一定の規模と世界的なネットワークを持つこと、審査体制が整備されていること、監査日数、監査期間及び具体的な監査実施要領並びに監査費用が合理的かつ妥当であること、さらに監査実績などにより総合的に判断しております。また、日本公認会計士協会の定める「独立性に関する指針」に基づき独立性を有することを確認するとともに、必要な専門性を有することについて検証し、確認いたします。

(e)監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、監査法人に対して評価を行っており、同法人による会計監査は、従前から適正に行われていることを確認しております。

また、監査等委員会は会計監査人の再任に関する確認決議をしており、その際には日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」に基づき、総合的に評価しております。

④監査報酬の内容等

「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」（平成31年1月31日 内閣府令第3号）による改正後の「企業内容等の開示に関する内閣府令」第二号様式記載上の注意(56) d (f) i からiiiの規定に経過措置を適用しております。

(a) 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	38	1	44	—
連結子会社	—	—	—	—
計	38	1	44	—

当社における非監査業務の内容は、主に連結子会社の内部統制構築に関する助言・指導業務です。

(b) その他重要な報酬の内容

前連結会計年度

当社の海外連結子会社の一部につきましては、当社の会計監査人と同一のネットワークに属しているアーンスト・アンド・ヤングに対して監査証明等に関する業務委託契約を締結しており、当連結会計年度における当該契約に基づく報酬の額は15百万円であります。

当連結会計年度

当社の海外連結子会社の一部につきましては、当社の会計監査人と同一のネットワークに属しているアーンスト・アンド・ヤングに対して監査証明等に関する業務委託契約を締結しており、当連結会計年度における当該契約に基づく報酬の額は15百万円であります。

(c) 監査報酬の決定方針

当社の事業規模や事業形態の観点から監査日数を想定し、監査公認会計士等と監査方針・監査日数を協議の上、監査報酬額を決定しております。

(d) 監査等委員会が会計監査人の監査報酬に同意した理由

監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、過年度における会計監査の職務執行状況、及び報酬見積の算出根拠などについて必要な検証を行い、また、財務部等の社内関係部署からの報告を含めて報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人が所要の監査体制と監査時間を確保し適正な監査を実施するために、本監査報酬額が妥当な水準であると認められることから、会社法第399条第1項及び第3項の同意を行っています。

(4) 【役員報酬等】

①役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役の報酬は、株主総会で決定された限度額の範囲内で具体的金額を決定しております。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬については、役位ごとの基本額とその職責に応じて算定される旨を規定に定めており、会社業績や経済情勢、他社動向、中長期業績や過去の支給実績等を総合的に勘案し、取締役会が代表取締役に一任し、決定しております。

監査等委員である取締役の報酬については、職責及び実績、知識・経験、会社業績や経済情勢、他社動向等、総合的に勘案し、監査等委員である取締役の協議により決定しております。

取締役（監査等委員を除く。）の報酬限度額は、2016年6月24日開催の第83回定時株主総会において年額260百万円以内（うち社外取締役30百万円以内）と決議されております。また、監査等委員である取締役の報酬限度額は、2016年6月24日開催の第83回定時株主総会において年額60百万円以内と決議されております。

②役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定 報酬	業績連動 報酬	退職慰労金	
取締役（監査等委員を除く） （社外取締役を除く）	143	119	—	24	6
取締役（監査等委員） （社外監査役を除く）	15	14	—	0	1
社外役員	37	37	—	—	5

- (注) 1 取締役の報酬等の額には、使用人分給与は含まれておりません。なお、使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なものはありません。
- 2 退職慰労金につきましては、当事業年度に係る役員退職慰労引当金繰入額を記載しております。
- 3 役員ごとの報酬等の総額につきましては、1億円以上を支給している役員はありませんので記載を省略しております。
- 4 上記支給人員及び報酬等の額には、2018年6月26日開催の第85回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役（監査等委員）1名を含んでおります。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社が今後も成長を続けるために、研究開発・生産・販売等の過程において、様々な企業との協力関係が必要と考えております。その為、事業戦略、取引先との事業上の関係において、当社の営業活動、事業活動又は財務活動の取引関係強化につながり、かつ当社の持続的成長及び中長期的な企業価値の向上に資すると判断した場合、純投資目的以外の目的である政策保有株式を保有することとしております。資産運用を目的とした純投資株式は、原則保有しません。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

個別の政策保有株式の保有の合理性については、保有目的が適切か、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等を具体的に精査し、保有の適否を取締役会において定期的に検証を行い、保有の意義が乏しいと判断される銘柄については売却・縮減を図ることとしております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	5	62
非上場株式以外の株式	33	4,069

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	—	—	—
非上場株式以外の株式	6	13	取引先持株会を通じた株式の取得

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	—	—
非上場株式以外の株式	—	—

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株) 貸借対照表計上額 (百万円)	株式数(株) 貸借対照表計上額 (百万円)		
スズキ(株)	307,800	307,800	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	有
	1,507	1,763		
日本パーカライ ジング(株)	250,200	250,200	(保有目的) 環境事業上の取引関係の維持強化	有
	345	434		
日本精化(株)	286,700	286,700	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	有
	345	352		
月島機械(株)	200,000	200,000	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	有
	275	300		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
長瀬産業(株)	150,000	150,000	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	有
	238	270		
(株)安永	144,600	144,600	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	有
	199	339		
豊田通商(株)	51,222	51,222	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	184	184		
いすゞ自動車(株)	91,514	90,000	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化 (株式数が増加した理由) 取引先持株会を通じた株式の取得	無
	133	146		
JXTGホールディングス(株)	214,000	214,000	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	有
	108	137		
イオンディライト(株)	20,030	18,895	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化 (株式数が増加した理由) 取引先持株会を通じた株式の取得	無
	86	72		
オーエスジー(株)	40,300	39,875	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化 (株式数が増加した理由) 取引先持株会を通じた株式の取得	無
	86	97		
日産自動車(株)	89,178	86,587	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化 (株式数が増加した理由) 取引先持株会を通じた株式の取得	無
	80	95		
(株)ジェイテクト	56,032	54,681	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化 (株式数が増加した理由) 取引先持株会を通じた株式の取得	無
	76	86		
(株)三井住友フィナンシャルグループ	16,717	16,717	(保有目的) 財務活動上の取引関係の維持強化	無
	64	74		
JFEホールディングス(株)	33,625	33,625	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	63	72		
(株)日本触媒	6,442	6,442	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	有
	46	46		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	61,712	61,712	(保有目的) 財務活動上の取引関係の維持強化	無
	33	43		
日本精工(株)	30,000	30,000	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	31	42		
(株)不二越	6,686	64,480	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化 (株式数が減少した理由) 取引先持株会を通じた株式を取得したが、株式併合により減少	無
	29	41		
オーウエル(株)	30,000	30,000	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	有
	20	11		
(株)ハリマビステム	7,114	7,114	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	20	17		
山陽特殊製鋼(株)	6,120	6,120	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	13	16		
日本管財(株)	6,600	6,600	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	13	13		
ブラザー工業(株)	5,787	5,787	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	11	14		
コスモエネルギーHD(株)	5,000	5,000	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	11	17		
(株)みずほフィナンシャルグループ	56,427	56,427	(保有目的) 財務活動上の取引関係の維持強化	無
	9	10		
ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)	2,852	713	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化 (株式数が増加した理由) 株式分割による増加	無
	8	6		
日本軽金属ホールディングス(株)	30,000	30,000	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	7	8		
東洋紡(株)	3,500	3,500	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	4	7		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
新日鐵住金(株)	2,000	2,000	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	3	4		
シキボウ(株)	3,700	3,700	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	3	4		
パナソニック(株)	1,840	1,840	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	1	2		
双日ホールディングス(株)	3,234	3,234	(保有目的) 営業活動上の取引関係の維持強化	無
	1	1		

(注)1 貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下のものを含む、全33銘柄について記載しております。

2 新日鐵住金(株)は、2019年4月1日付で日本製鉄(株)に商号変更しております。

3 当社は、特定投資株式における定量的な保有効果の記載が困難であるため、保有の合理性を検証した方法について記載いたします。当社は、個別の政策保有株式について政策保有の意義を検証しており、検証の結果、現状保有する政策保有株式はいずれも保有方針に沿った目的で保有していることを確認しております。

③ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

なお、EY新日本有限責任監査法人は2018年7月1日をもって、新日本有限責任監査法人から名称変更しております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することが出来る体制を整備するために、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等が主催する研修会・セミナーへの参加、会計専門書の定期購読等を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,439	7,145
受取手形及び売掛金	※3 6,598	※3 7,196
商品及び製品	1,535	1,817
原材料及び貯蔵品	2,157	2,722
その他	247	420
貸倒引当金	△20	△23
流動資産合計	18,957	19,279
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,761	4,856
機械装置及び運搬具（純額）	1,256	1,363
工具、器具及び備品（純額）	318	396
土地	5,111	5,150
リース資産（純額）	15	50
建設仮勘定	42	51
有形固定資産合計	※1 11,505	※1 11,869
無形固定資産		
のれん	5	2,421
顧客関連資産	—	2,094
技術資産	—	704
商標権	1	617
その他	700	565
無形固定資産合計	707	6,403
投資その他の資産		
投資有価証券	※2 11,442	※2 10,720
保険積立金	622	472
長期預金	165	2
繰延税金資産	6	12
その他	296	220
貸倒引当金	△20	△22
投資その他の資産合計	12,512	11,406
固定資産合計	24,725	29,678
資産合計	43,683	48,958

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※3 3,767	※3 4,351
短期借入金	1,717	2,343
リース債務	21	81
未払金	816	839
未払消費税等	34	46
未払法人税等	291	197
賞与引当金	506	396
役員賞与引当金	27	4
その他	1,148	1,258
流動負債合計	8,331	9,519
固定負債		
長期借入金	511	4,422
リース債務	72	62
繰延税金負債	714	1,487
役員退職慰労引当金	98	124
厚生年金基金解散損失引当金	275	—
退職給付に係る負債	1,247	1,180
長期預り保証金	178	179
資産除去債務	16	16
その他	39	173
固定負債合計	3,154	7,646
負債合計	11,485	17,166
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,249	4,249
資本剰余金	4,046	4,014
利益剰余金	22,229	23,275
自己株式	△426	△426
株主資本合計	30,098	31,112
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,146	1,661
為替換算調整勘定	△1,915	△2,880
退職給付に係る調整累計額	△25	△23
その他の包括利益累計額合計	205	△1,242
非支配株主持分	1,893	1,922
純資産合計	32,197	31,791
負債純資産合計	43,683	48,958

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	31,565	35,170
売上原価	※4 21,473	※4 24,576
売上総利益	10,092	10,594
販売費及び一般管理費	※1, ※2 7,589	※1, ※2 8,518
営業利益	2,502	2,076
営業外収益		
受取利息	85	54
受取配当金	72	89
持分法による投資利益	593	442
その他	103	113
営業外収益合計	855	699
営業外費用		
支払利息	39	47
保険解約損	—	30
為替差損	31	17
その他	42	46
営業外費用合計	114	141
経常利益	3,243	2,634
特別損失		
固定資産除売却損	※3 10	※3 18
特別損失合計	10	18
税金等調整前当期純利益	3,232	2,616
法人税、住民税及び事業税	732	606
法人税等調整額	△8	19
法人税等合計	723	626
当期純利益	2,508	1,989
非支配株主に帰属する当期純利益	280	264
親会社株主に帰属する当期純利益	2,228	1,724

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
当期純利益	2,508	1,989
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	556	△481
為替換算調整勘定	88	△685
退職給付に係る調整額	18	2
持分法適用会社に対する持分相当額	469	△413
その他の包括利益合計	※ 1,132	※ △1,578
包括利益	3,641	411
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,301	276
非支配株主に係る包括利益	340	134

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,249	4,046	20,544	△426	28,413
当期変動額					
剰余金の配当			△543		△543
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,228		2,228
自己株式の取得				△0	△0
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動					—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	1,685	△0	1,684
当期末残高	4,249	4,046	22,229	△426	30,098

(単位：百万円)

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,594	△2,417	△44	△867	1,772	29,318
当期変動額						
剰余金の配当						△543
親会社株主に帰属する 当期純利益						2,228
自己株式の取得						△0
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動						—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	552	501	18	1,072	121	1,194
当期変動額合計	552	501	18	1,072	121	2,878
当期末残高	2,146	△1,915	△25	205	1,893	32,197

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,249	4,046	22,229	△426	30,098
当期変動額					
剰余金の配当			△678		△678
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,724		1,724
自己株式の取得				△0	△0
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		△31			△31
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	△31	1,045	△0	1,013
当期末残高	4,249	4,014	23,275	△426	31,112

(単位：百万円)

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	2,146	△1,915	△25	205	1,893	32,197
当期変動額						
剰余金の配当						△678
親会社株主に帰属する 当期純利益						1,724
自己株式の取得						△0
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動						△31
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△485	△964	1	△1,448	28	△1,419
当期変動額合計	△485	△964	1	△1,448	28	△405
当期末残高	1,661	△2,880	△23	△1,242	1,922	31,791

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,232	2,616
減価償却費	737	923
のれん償却額	9	69
持分法による投資損益 (△は益)	△593	△442
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1	△2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1	△109
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△6	△22
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△19	△63
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△53	25
厚生年金基金解散損失引当金の増減額 (△は減少)	△19	—
受取利息及び受取配当金	△158	△143
支払利息	39	47
売上債権の増減額 (△は増加)	△543	16
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△454	△599
仕入債務の増減額 (△は減少)	297	248
その他	402	87
小計	2,874	2,651
利息及び配当金の受取額	280	262
利息の支払額	△39	△47
法人税等の支払額	△903	△745
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,211	2,121
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△178	△112
定期預金の払戻による収入	158	394
投資有価証券の取得による支出	△8	△8
投資有価証券の売却による収入	0	—
有形固定資産の取得による支出	△922	△674
有形固定資産の売却による収入	14	14
無形固定資産の取得による支出	△275	△14
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	※2 △6,226
非連結子会社株式の取得による支出	—	△37
その他	△29	154
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,241	△6,510
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2	△3
長期借入れによる収入	104	5,102
長期借入金の返済による支出	△236	△561
配当金の支払額	△543	△678
非支配株主への配当金の支払額	△275	△252
自己株式の取得による支出	△0	△0
リース債務の返済による支出	△21	△28
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△76
財務活動によるキャッシュ・フロー	△975	3,500
現金及び現金同等物に係る換算差額	53	△245
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	48	△1,135
現金及び現金同等物の期首残高	8,034	8,082
現金及び現金同等物の期末残高	※1 8,082	※1 6,947

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

16社

連結子会社の名称

ユシロ運送(株)

ユシロ・ゼネラルサービス(株)

日本シー・ビー・ケミカル(株)

ユシロマニュファクチャリングアメリカInc.

QualiChem, Inc.

ユシロドブラジルインダストリアケミカLtda.

ユシロメキシコS. A. de C. V.

上海尤希路化学工業有限公司

啓東尤希路化学工業有限公司

広州尤希路油剂有限公司

泰興西碧化学有限公司

ユシロマレーシアSdn. Bhd.

ユシロ (タイランド) Co., Ltd.

Siam Cee-Bee Chemical Co., Ltd.

ユシロインディアカンパニーPvt. Ltd.

PT. ユシロインドネシア

このうち、QualiChem, Inc. については、当連結会計年度において同社株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

(2) 非連結子会社の名称等

QualiChem Hong Kong, Limited

QualiChem Trading (Shanghai) Co., Ltd.

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社2社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等が、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数

3社

会社等の名称

汎宇化学工業(株)

(株)汎宇

三宜油化股份有限公司

(2) 持分法を適用しない非連結子会社の名称等

QualiChem Hong Kong, Limited

QualiChem Trading (Shanghai) Co., Ltd.

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない非連結子会社は、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

子会社のうち海外子会社の決算日は、ユシロインディアカンパニーPvt.Ltd.を除き12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

…決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

…移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

月次総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。（ただし、貯蔵品のうち燃料については、最終仕入原価法を採用しております。）

(3) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は、定率法（ただし、1997年に竣工した神奈川テクニカルセンターの試験棟及び1998年4月1日以降取得の建物（建物附属設備を除く）ならびに2016年4月1日以降取得の建物附属設備及び構築物については定額法）を採用し、在外連結子会社は主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3年～50年

その他の有形固定資産 2年～20年

②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

また、顧客関連資産については20年、技術資産については15年、商標権については10年～15年で均等償却しております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

④長期前払費用

定額法を採用しております。

(4) 外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(5) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員に対して支給する賞与を支給対象期間に対応して費用負担するため支給見込額を計上しております。

③役員賞与引当金

一部の連結子会社は、役員に対して支給する賞与の支払いに備えるため、当連結会計年度末における支給見込額を計上しております。

④役員退職慰労引当金

当社、子会社のユシロ運送㈱及びユシロ・ゼネラルサービス㈱は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末退職慰労金要支給額を計上しております。

(6) 退職給付に係る会計処理の方法

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

③小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

13年以内の合理的な期間で定額法により償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 平成30年3月30日）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日）

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり
ます。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「無形固定資産」に含めていた「のれん」及び「商標権」は、金額的重要性が増した
ため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計
年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「無形固定資産」に表示していた707百万円は、「のれ
ん」5百万円、「商標権」1百万円、「その他」700百万円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「のれん償却額」
は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反
映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」
の「その他」に表示していた9百万円は、「のれん償却額」9百万円として組み替えております。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の
期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方
法に変更しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、流動資産に表示されていた「繰延税金資産」が190百万
円が減少し、投資その他の資産に表示されていた「繰延税金資産」が4百万円増加しております。また、流動負債
に表示されていた「その他」が0百万円減少し固定負債に計上されていた「繰延税金負債」が185百万円減少して
おります。

なお、同一納税主体の繰延税金資産と繰延税金負債を相殺して表示しており、変更前と比べて総資産が185百万
円減少しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
減価償却累計額	14,782百万円	15,100百万円

上記の減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

※2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
投資有価証券(株式)	6,452百万円	6,409百万円

※3 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理し
ております。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
受取手形	64百万円	69百万円
支払手形	29百万円	38百万円

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
支払運賃	672百万円	707百万円
給料及び手当	1,835百万円	2,114百万円
役員退職慰労引当金繰入額	25百万円	24百万円
退職給付費用	116百万円	103百万円
賞与引当金繰入額	342百万円	242百万円

※2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
研究開発費	1,632百万円	1,773百万円

※3 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	3百万円	1百万円
機械装置及び運搬具	3百万円	12百万円
工具、器具及び備品	4百万円	5百万円
合計	10百万円	18百万円

※4 期末たな卸高は、簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上原価	2百万円	4百万円

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	801百万円	△692百万円
組替調整額	△0百万円	一百万円
税効果調整前	801百万円	△692百万円
税効果額	△244百万円	211百万円
その他有価証券評価差額金	556百万円	△481百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	88百万円	△685百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	△5百万円	△13百万円
組替調整額	33百万円	15百万円
税効果調整前	27百万円	2百万円
税効果額	△8百万円	△0百万円
退職給付に係る調整額	18百万円	2百万円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	469百万円	△413百万円
その他の包括利益合計	1,132百万円	△1,578百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	13,900,065	—	—	13,900,065

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	322,176	406	—	322,582

(変動事由の概要)

増減数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 406株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年5月31日 取締役会	普通株式	339	25	2017年3月31日	2017年6月12日
2017年11月7日 取締役会	普通株式	203	15	2017年9月30日	2017年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月25日 取締役会	普通株式	利益剰余金	407	30	2018年3月31日	2018年6月11日

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	13,900,065	—	—	13,900,065

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	322,582	142	—	322,724

(変動事由の概要)

増減数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 142株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年5月25日 取締役会	普通株式	407	30	2018年3月31日	2018年6月11日
2018年11月7日 取締役会	普通株式	271	20	2018年9月30日	2018年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月27日 取締役会	普通株式	利益剰余金	339	25	2019年3月31日	2019年6月10日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	8,439百万円	7,145百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△356百万円	△197百万円
現金及び現金同等物	8,082百万円	6,947百万円

※2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

株式の取得により新たにQualiChem, Inc. を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳ならびに同社株式の取得価額と連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出(純額)との関係は次のとおりです。

流動資産	1,295百万円
固定資産	4,158百万円
のれん	2,486百万円
流動負債	△671百万円
固定負債	△994百万円
同社株式の取得価額	6,274百万円
同社の現金及び現金同等物	△48百万円
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	6,226百万円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

(有形固定資産)

主として、OA機器、研究開発機器(工具、器具及び備品)です。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年内	31百万円	54百万円
1年超	47百万円	82百万円
合計	79百万円	137百万円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取り組み方針

当社グループは、主に金属加工油剤の製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。また、資金運用については安全性の高い金融資産で運用しており、売買益を目的とするような投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。

有価証券及び投資有価証券のうち株式は、市場価格変動リスクに晒されておりますが、これらは主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価及び発行体の財務状況を把握しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。支払期日にその支払を実行できなくなる流動性リスクに晒されております。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に長期の運転資金と設備投資等に係る資金調達です。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、「与信管理規定」に従い、営業債権について取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、取引先の信用状況を適時把握する体制としており、回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）

投資有価証券については、定期的に時価及び発行体の財務状況を把握しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）

当社は、各部署からの報告に基づき財務部が適時に資金繰計画を作成・更新することで、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	8,439	8,439	—
(2) 受取手形及び売掛金	6,598	6,598	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	4,914	4,914	—
資産計	19,953	19,953	—
(4) 支払手形及び買掛金	3,767	3,767	—
(5) 短期借入金※	1,493	1,493	—
(6) 長期借入金※	735	736	0
負債計	5,996	5,997	0

※長期借入金の支払期日が1年以内になったことにより短期借入金に計上されたもの(224百万円)について、本表では長期借入金として表示しております。

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	7,145	7,145	—
(2) 受取手形及び売掛金	7,196	7,196	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	4,247	4,247	—
資産計	18,589	18,589	—
(4) 支払手形及び買掛金	4,351	4,351	—
(5) 短期借入金※	1,492	1,492	—
(6) 長期借入金※	5,273	5,275	1
負債計	11,117	11,119	1

※長期借入金の支払期日が1年以内になったことにより短期借入金に計上されたもの(851百万円)について、本表では長期借入金として表示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金ならびに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、投資信託については市場価格によっております。

負債

(4) 支払手形及び買掛金ならびに(5) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6) 長期借入金

これらの時価については、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映しており、時価は帳簿価額とほぼ等しいと考えられることから当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	2018年3月31日	2019年3月31日
非上場株式	6,527	6,472

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」のその他有価証券には含めておりません。

(注3)金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（2018年3月31日）

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	8,421	—	—	—
受取手形及び売掛金	6,598	—	—	—
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの（社債）	—	—	99	—
合計	15,020	—	99	—

当連結会計年度（2019年3月31日）

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	7,133	—	—	—
受取手形及び売掛金	7,196	—	—	—
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの（社債）	—	—	100	—
合計	14,330	—	100	—

(注4)長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（2018年3月31日）

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	1,493	—	—	—	—	—
長期借入金	224	194	152	142	21	—
合計	1,717	194	152	142	21	—

当連結会計年度（2019年3月31日）

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	1,492	—	—	—	—	—
長期借入金	851	811	776	646	625	1,562
合計	2,343	811	776	646	625	1,562

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度 (2018年3月31日)

(単位:百万円)

区分	決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	4,764	1,801	2,963
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	50	32	18
小計	4,815	1,833	2,981
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式	0	0	—
(2) 債券	99	100	△0
(3) その他	—	—	—
小計	99	100	△0
合計	4,914	1,933	2,981

当連結会計年度 (2019年3月31日)

(単位:百万円)

区分	決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	4,090	1,815	2,274
(2) 債券	100	100	0
(3) その他	48	32	15
小計	4,238	1,948	2,290
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式	8	10	△1
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	—	—	—
小計	8	10	△1
合計	4,247	1,958	2,289

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：百万円）

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
(1) 株式	0	0	—
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	0	0	—

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

3 減損処理を行った有価証券

表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価格であります。前連結会計年度、当連結会計年度ともに、該当事項はありません。

なお、当社グループにおける株式の減損処理の方針は、次のとおりであります。

下落率50%以上の場合は、すべての株式を減損処理の対象とし、時価と簿価の差額について評価損を計上することとしております。

下落率30%以上50%未満の場合は、個別に回復可能性を検証したうえで回復可能性があるものを除く株式について減損処理の対象とし、時価と簿価の差額について評価損を計上することとしております。具体的には次の(1)から(3)に該当する場合を減損処理の対象としております。

- (1) 時価が過去2年間にわたり30%以上下落した状態にある場合
- (2) 債務超過の状態である場合
- (3) 2期連続で経常損失を計上しており、翌期もそのように予想される場合

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付型の制度として退職一時金制度（非積立型）、確定給付企業年金制度（積立型）を設けております。また、国内子会社であるユシロ運送㈱及びユシロ・ゼネラルサービス㈱は、確定拠出型の中小企業退職金共済制度を設けております。日本シー・ビー・ケミカル㈱が有する確定拠出型の中小企業退職金共済制度及び退職一時金制度（非積立型）は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計上しております。在外連結子会社においては、ユシロ（タイランド）Co.,Ltd.及びPT.ユシロインドネシアは確定給付型の退職給付制度（非積立型）を採用し、ユシロインディアカンパニーPvt.Ltd.は、確定給付型（非積立型）と確定拠出型の双方の退職給付制度を採用し、ユシロマニュファクチャリングアメリカInc.及びQualiChem, Inc.は、確定拠出型の退職給付制度を採用しております。その他の在外子会社においては、退職給付制度を採用していません。

また、当社が加入していた複数事業主制度の日本界面活性剤工業厚生年金基金（総合設立型）は、2017年1月27日付で厚生労働大臣より解散の認可を受け、清算結了へ向け業務が進められておりましたが、当連結会計年度におきまして、同基金より納付計画の補正通知を受けました。

これに伴い、前連結会計年度に計上いたしました厚生年金基金解散損失引当金275百万円と確定額との差額0百万円を営業外費用のその他として計上しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（(3)に掲げられた簡便法を適用した制度を除く）

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,350百万円	2,390百万円
勤務費用	136百万円	134百万円
利息費用	25百万円	25百万円
数理計算上の差異の発生額	△7百万円	△7百万円
退職給付の支払額	△111百万円	△129百万円
その他	△2百万円	△1百万円
退職給付債務の期末残高	2,390百万円	2,413百万円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（(3)に掲げられた簡便法を適用した制度を除く）

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
年金資産の期首残高	1,286百万円	1,399百万円
期待運用収益	25百万円	27百万円
数理計算上の差異の発生額	△13百万円	△21百万円
事業主からの拠出額	158百万円	160百万円
退職給付の支払額	△57百万円	△64百万円
年金資産の期末残高	1,399百万円	1,502百万円

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	229百万円	255百万円
退職給付費用	29百万円	29百万円
退職給付の支払額	一百万円	△11百万円
制度への拠出額	△4百万円	△4百万円
退職給付に係る負債の期末残高	255百万円	269百万円

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	1,614百万円	1,630百万円
年金資産	△1,399百万円	△1,502百万円
	215百万円	128百万円
非積立型制度の退職給付債務	1,031百万円	1,052百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,247百万円	1,180百万円
退職給付に係る負債	1,247百万円	1,180百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,247百万円	1,180百万円

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	136百万円	134百万円
利息費用	25百万円	25百万円
期待運用収益	△25百万円	△27百万円
数理計算上の差異の費用処理額	30百万円	15百万円
過去勤務費用の費用処理額	3百万円	一百万円
簡便法で計算した退職給付費用	29百万円	29百万円
確定給付制度に係る退職給付費用	198百万円	178百万円

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
過去勤務費用	3百万円	一百万円
数理計算上の差異	24百万円	2百万円
合計	27百万円	2百万円

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
未認識数理計算上の差異	36百万円	34百万円
合計	36百万円	34百万円

(8) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
一般勘定	50%	50%
債券	21%	7%
株式	9%	2%
その他	20%	41%
合計	100%	100%

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
割引率	1%	1%
長期期待運用収益率	2%	2%

(注) 当社はポイント制を採用しているため、退職給付債務の算定に際して予想昇給率を使用しておりません。

3 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度16百万円、当連結会計年度22百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	110百万円	110百万円
未払賞与社会保険料	19百万円	19百万円
未払事業税	13百万円	13百万円
たな卸資産未実現利益	28百万円	25百万円
税務上の繰越欠損金	144百万円	158百万円
退職給付に係る負債	377百万円	358百万円
役員退職慰労引当金	28百万円	36百万円
厚生年金基金解散損失引当金	84百万円	一百万円
厚生年金基金解散損失負担金	一百万円	68百万円
投資有価証券評価損	119百万円	119百万円
会員権評価損(ゴルフ)	3百万円	3百万円
全面時価評価法による評価差額	一百万円	17百万円
その他	67百万円	65百万円
繰延税金資産小計	997百万円	996百万円
評価性引当額	△313百万円	△325百万円
繰延税金資産合計	683百万円	671百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	781百万円	569百万円
特定資産圧縮積立金	166百万円	166百万円
連結子会社の割増償却額	102百万円	93百万円
全面時価評価法による評価差額	302百万円	1,243百万円
その他	39百万円	72百万円
繰延税金負債合計	1,391百万円	2,146百万円
繰延税金負債純額	708百万円	1,475百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	31%	31%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1%	1%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0%	△0%
試験研究費税額控除	△1%	△1%
住民税均等割額	1%	1%
持分法損益	△6%	△5%
税率の異なる海外子会社の利益	△5%	△7%
評価性引当額	0%	1%
外国税額控除	3%	4%
その他	△1%	1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	22%	24%

(企業結合等関係)

取得による企業結合

当社は、当社の連結子会社であるユシロマニュファクチャリングアメリカInc.（以下「Yuma社」）を通じ、QualiChem, Inc.（以下「QualiChem社」）の株式を以下のとおり取得しました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 QualiChem, Inc.

事業の内容 金属加工油剤及び水処理剤の製造販売

② 企業結合を行った主な理由

当社はグローバル化の推進を中期経営計画の重要方針に掲げ、米州、中国及び東南アジア、インドに進出し現地日系企業を中心に事業拡大を図っております。しかし、持続的成長においては海外各拠点での非日系企業への拡販や非自動車分野への参入が課題となっています。特に北米市場でのこの様な実績は当社にとって他拠点での事業拡大に繋がる最重要課題と位置付けております。

今回、株式取得した米国QualiChem社は北米市場を事業基盤とした金属加工油剤メーカーであり、欧米系顧客を主体とし、充実した代理店を活用して航空機、医療機器分野といった非自動車分野への展開で事業拡大しています。

今後はQualiChem社の北米における販売チャネルを活用したYuma社製品の拡販、原材料調達及び技術面でのコラボレーション、更に将来的には北米以外の当社拠点の活用により上記課題分野における事業拡大に繋げることが可能と考えております。

③ 企業結合日

2018年8月31日

④ 企業結合の法的形式

株式取得

⑤ 結合後企業の名称

結合後企業の名称に変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

Yuma社が現金を対価として株式を取得したためであります。

(2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2018年9月1日から2018年12月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	6,274百万円
取得原価		6,274百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 159百万円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれんの金額

2,486百万円

② 発生原因

主として、今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

③ 償却方法及び償却期間

13年間にわたる定額法

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び負債の額並びにその主な内訳

流動資産	1,295百万円
固定資産	4,158百万円
資産合計	5,453百万円
流動負債	671百万円
固定負債	994百万円
負債合計	1,665百万円

(7) のれん以外の無形固定資産に配分された金額及びその主要な種類別の内訳並びに加重平均償却期間

種類	金額	加重平均償却期間
顧客関連資産	2,131百万円	20年
技術資産	720百万円	15年
商標権	629百万円	15年
合計	3,481百万円	—

(8) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

売上高	3,676百万円
営業利益	12百万円

(概算額の算定方法)

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された売上高及び損益情報と、取得企業の連結損益計算書における売上高及び損益情報との差額を影響の概算額としております。また、企業結合時に認識されたのれん等が連結会計年度開始の日に発生したものととして償却額を計算しております。

なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主に金属加工油剤を生産・販売しており、国内においては当社が、海外においては各地域をそれぞれ独立した現地法人が担当しており、取扱う製品について各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、生産・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」、「南北アメリカ」、「中国」及び「東南アジア／インド」の4地域を報告セグメントとしております。なお、「日本」セグメントでのみ、金属加工油剤のほか、ビルメンテナンス製品を生産・販売しております。報告セグメントの各地域に属する国は、次のとおりであります。

報告セグメント	国名
日本	日本
南北アメリカ	アメリカ、ブラジル、メキシコ
中国	中国
東南アジア／インド	マレーシア、タイ、インド、インドネシア

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

I 前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	連結財務 諸表計上額 (注) 2
	日本	南北 アメリカ	中国	東南アジア ／インド	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	16,868	5,710	4,488	4,498	31,565	—	31,565
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,095	5	34	62	1,197	△1,197	—
計	17,963	5,715	4,523	4,560	32,763	△1,197	31,565
セグメント利益	931	535	497	527	2,492	9	2,502
セグメント資産	15,239	4,293	5,093	4,883	29,509	14,173	43,683
その他の項目							
減価償却費	431	117	71	117	737	—	737
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	427	159	113	496	1,196	—	1,196

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益（営業利益）の調整額9百万円のうち主なものは、内部損益取引の調整額が22百万円、未実現利益の消去が△2百万円、のれん償却が△9百万円であります。

(2)セグメント資産の調整額14,173百万円には、全社資産の金額8,937百万円、持分法適用会社への投資額6,452百万円及び報告セグメント間の債権債務の相殺消去等△1,216百万円が含まれております。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額 (注) 1	連結財務 諸表計上額 (注) 2
	日本	南北 アメリカ	中国	東南アジア /インド	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	17,965	7,537	4,880	4,787	35,170	—	35,170
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,045	2	16	83	1,148	△1,148	—
計	19,011	7,539	4,897	4,871	36,318	△1,148	35,170
セグメント利益	831	396	441	535	2,203	△126	2,076
セグメント資産	15,376	6,120	4,717	4,775	30,990	17,967	48,958
その他の項目							
減価償却費	494	129	95	136	857	66	923
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額 (注) 3	416	107	65	48	638	—	638

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1)セグメント利益（営業利益）の調整額△126百万円のうち主なものは、内部損益取引の調整額6百万円、未実現利益の消去2百万円、QualiChem社買収に係るのれん及び無形固定資産の償却費△130百万円であります。
 - (2)セグメント資産の調整額17,967百万円には、全社資産の金額6,800百万円、持分法適用会社への投資額6,335百万円、QualiChem社買収に係るのれん及び無形固定資産5,835百万円並びに報告セグメント間の債権債務の相殺消去等△1,004百万円が含まれております。
 - (3)減価償却費の調整額66百万円は、QualiChem社買収に係る無形固定資産の償却費であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 - 3 有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、新規連結に伴う増加額を含めておりません。

【関連情報】

1 製品及びサービスごとの情報

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：百万円）

金属加工油剤関連事業	ビルメンテナンス関連事業	合計
29,913	1,652	31,565

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：百万円）

金属加工油剤関連事業	ビルメンテナンス関連事業	合計
33,505	1,664	35,170

2 地域ごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

当連結会計年度におけるのれん償却額69百万円、未償却残高2,421百万円は、報告セグメントに配分しておりません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

当連結会計年度において、重要な関連会社は汎宇化学工業㈱、(株)汎宇、三宜油化股份有限公司であり、その要約財務諸表は以下のとおりであります。

重要な関連会社の要約財務情報

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	汎宇化学工業㈱	(株)汎宇	三宜油化股份有限公司
流動資産合計	5,442	2,966	4,381
固定資産合計	4,397	3,430	351
流動負債合計	1,652	659	730
固定負債合計	217	206	372
純資産合計	7,970	5,530	3,628
売上高	9,968	4,404	2,083
税引前当期純利益	1,011	606	367
当期純利益	835	514	329

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	汎宇化学工業㈱	(株)汎宇	三宜油化股份有限公司
流動資産合計	5,243	3,156	4,221
固定資産合計	3,984	3,100	264
流動負債合計	1,359	565	644
固定負債合計	281	206	305
純資産合計	7,586	5,486	3,535
売上高	10,166	4,744	1,680
税引前当期純利益	631	565	254
当期純利益	443	454	243

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	2,231.91円	2,199.96円
1株当たり当期純利益	164.13円	127.03円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	2,228	1,724
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	2,228	1,724
普通株式の期中平均株式数(千株)	13,577	13,577

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	32,197	31,791
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	1,893	1,922
(うち非支配株主持分)	(1,893)	(1,922)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	30,303	29,869
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	13,577	13,577

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,493	1,492	0.57	—
1年以内に返済予定の長期借入金	224	851	0.35	—
1年以内に返済予定のリース債務	21	81	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	511	4,422	0.40	2020年4月～ 2026年8月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	72	62	—	2020年4月～ 2025年8月
合計	2,323	6,909	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	811	776	646	625
リース債務	17	16	14	11

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

	第1四半期 連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	第2四半期 連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	第3四半期 連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	第86期 連結会計年度 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)
売上高(百万円)	8,043	16,380	25,539	35,170
税金等調整前 四半期(当期) 純利益(百万円)	867	1,399	2,266	2,616
親会社株主に帰属 する四半期(当期) 純利益(百万円)	655	1,025	1,621	1,724
1株当たり 四半期(当期) 純利益(円)	48.31	75.50	119.43	127.03
	第1四半期 連結会計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	第2四半期 連結会計期間 (自2018年7月1日 至2018年9月30日)	第3四半期 連結会計期間 (自2018年10月1日 至2018年12月31日)	第4四半期 連結会計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)
1株当たり 四半期純利益(円)	48.31	27.18	43.92	7.60

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,947	2,490
受取手形	※2 833	※2 862
売掛金	※1 3,229	※1 3,299
関係会社短期貸付金	※1 662	※1 717
商品及び製品	562	588
半製品	85	113
原材料及び貯蔵品	667	887
その他	※1 359	※1 226
貸倒引当金	△7	△1
流動資産合計	10,339	9,184
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,509	1,539
構築物（純額）	371	347
機械装置及び運搬具（純額）	283	271
工具、器具及び備品（純額）	183	235
土地	3,745	3,745
リース資産（純額）	15	36
建設仮勘定	—	1
有形固定資産合計	6,110	6,176
無形固定資産		
ソフトウェア	163	60
その他	14	13
無形固定資産合計	177	73
投資その他の資産		
投資有価証券	4,955	4,280
関係会社株式	5,910	12,294
関係会社出資金	980	1,057
従業員に対する長期貸付金	1	3
破産更生債権等	1	1
長期前払費用	79	49
保険積立金	622	472
長期差入保証金	13	13
その他	54	54
貸倒引当金	△17	△18
投資その他の資産合計	12,600	18,209
固定資産合計	18,888	24,459
資産合計	29,228	33,644

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	310	315
買掛金	※1 2,635	※1 2,832
短期借入金	1,490	1,490
1年内返済予定の長期借入金	224	851
リース債務	7	11
未払金	※1 320	※1 429
未払法人税等	129	85
従業員預り金	402	404
賞与引当金	314	316
設備関係支払手形	31	4
その他	192	191
流動負債合計	6,058	6,931
固定負債		
長期借入金	508	4,419
リース債務	9	28
繰延税金負債	409	232
退職給付引当金	940	861
役員退職慰労引当金	93	117
厚生年金基金解散損失引当金	275	—
長期未払金	—	164
資産除去債務	9	9
長期預り保証金	178	179
固定負債合計	2,424	6,013
負債合計	8,483	12,944
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,249	4,249
資本剰余金		
資本準備金	3,994	3,994
資本剰余金合計	3,994	3,994
利益剰余金		
利益準備金	394	394
その他利益剰余金		
特定資産圧縮積立金	376	376
別途積立金	6,400	6,400
繰越利益剰余金	3,615	4,047
利益剰余金合計	10,786	11,218
自己株式	△426	△426
株主資本合計	18,603	19,036
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,141	1,663
評価・換算差額等合計	2,141	1,663
純資産合計	20,745	20,699
負債純資産合計	29,228	33,644

② 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	※2 16,362	※2 17,396
売上原価	※2 11,792	※2 12,811
売上総利益	4,569	4,585
販売費及び一般管理費	※1, ※2 3,959	※1, ※2 4,066
営業利益	609	519
営業外収益		
受取利息及び配当金	※2 895	※2 859
受取地代家賃	11	11
為替差益	—	16
その他	71	46
営業外収益合計	978	934
営業外費用		
支払利息	18	29
為替差損	34	—
その他	10	42
営業外費用合計	63	72
経常利益	1,524	1,381
税引前当期純利益	1,524	1,381
法人税、住民税及び事業税	267	237
法人税等調整額	12	33
法人税等合計	279	270
当期純利益	1,244	1,111

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他 利益剰余金	
					特定資産 圧縮積立金	別途積立金	
当期首残高	4,249	3,994	—	3,994	394	376	6,400
当期変動額							
剰余金の配当							
当期純利益							
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	—
当期末残高	4,249	3,994	—	3,994	394	376	6,400

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他 利益剰余金	利益剰余金合計					
	繰越利益剰余金						
当期首残高	2,913	10,085	△426	17,903	1,585	1,585	19,488
当期変動額							
剰余金の配当	△543	△543		△543			△543
当期純利益	1,244	1,244		1,244			1,244
自己株式の取得			△0	△0			△0
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）					556	556	556
当期変動額合計	701	701	△0	700	556	556	1,256
当期末残高	3,615	10,786	△426	18,603	2,141	2,141	20,745

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他 利益剰余金	
						特定資産 圧縮積立金	別途積立金
当期首残高	4,249	3,994	—	3,994	394	376	6,400
当期変動額							
剰余金の配当							
当期純利益							
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	—
当期末残高	4,249	3,994	—	3,994	394	376	6,400

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他 利益剰余金	利益剰余金合計					
	繰越利益剰余金						
当期首残高	3,615	10,786	△426	18,603	2,141	2,141	20,745
当期変動額							
剰余金の配当	△678	△678		△678			△678
当期純利益	1,111	1,111		1,111			1,111
自己株式の取得			△0	△0			△0
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）					△477	△477	△477
当期変動額合計	432	432	△0	432	△477	△477	△45
当期末残高	4,047	11,218	△426	19,036	1,663	1,663	20,699

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式……移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの……決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの……移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

月次総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。

（ただし、貯蔵品のうち燃料については、最終仕入原価法を採用しております。）

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、1997年に竣工した神奈川テクニカルセンターの試験棟及び1998年4月1日以降取得の建物（建物附属設備を除く）ならびに2016年4月1日以降取得の建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	3年～50年
その他の有形固定資産	2年～20年
取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産	3年間で均等償却

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与を支給対象期間に対応して費用負担するために支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。また、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により、発生年度の翌事業年度から費用処理することとしております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末退職慰労金要支給額を計上しております。

6 その他財務諸表作成のための重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日。「以下「税効果会計基準一部改正」という。）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」130百万円は、「固定負債」の「繰延税金負債」409百万円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

※1 関係会社に対する資産及び負債は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	1,491百万円	1,312百万円
短期金銭債務	92百万円	90百万円

※2 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
受取手形	41百万円	43百万円

(損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額ならびにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
支払運賃	739百万円	776百万円
給料及び手当	985百万円	914百万円
賞与引当金繰入額	182百万円	179百万円
役員退職慰労引当金繰入額	22百万円	22百万円
退職給付費用	102百万円	84百万円
減価償却費	154百万円	152百万円
研究開発費	410百万円	491百万円
おおよその割合		
販売費	27%	27%
一般管理費	73%	73%

※2 関係会社との主な取引の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	1,229百万円	1,198百万円
売上原価	276百万円	255百万円
販売費及び一般管理費	757百万円	796百万円
営業取引以外の取引高 受取利息及び配当金	821百万円	769百万円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
子会社株式	4,779	11,163
関連会社株式	1,130	1,130
計	5,910	12,294

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
・繰延税金資産		
賞与引当金	96百万円	96百万円
未払賞与社会保険料	17百万円	17百万円
未払事業税	12百万円	11百万円
退職給付引当金	287百万円	263百万円
役員退職慰労引当金	28百万円	36百万円
投資有価証券評価損	119百万円	119百万円
関係会社株式評価損	225百万円	225百万円
会員権評価損(ゴルフ)	3百万円	3百万円
厚生年金基金解散損失引当金	84百万円	一百万円
厚生年金基金解散損失負担金	一百万円	68百万円
その他	13百万円	13百万円
繰延税金資産小計	888百万円	855百万円
評価性引当額	△357百万円	△357百万円
繰延税金資産合計	531百万円	498百万円
・繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	774百万円	564百万円
特定資産圧縮積立金	166百万円	166百万円
その他	0百万円	0百万円
繰延税金負債合計	941百万円	730百万円
繰延税金負債純額	409百万円	232百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	31%	31%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1%	1%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△16%	△16%
住民税均等割額	1%	2%
試験研究費税額控除	△3%	△2%
外国税額控除	△0%	△0%
外国源泉税	5%	5%
評価性引当額	△1%	0%
その他	0%	△0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	18%	20%

(企業結合等関係)

取得による企業結合

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	当期末減価 償却累計額 又は 償却累計額	当期償却額	差引当期末 残高
有形固定資産							
建物	5,125	113	9	5,229	3,690	83	1,539
構築物	2,299	10	—	2,309	1,962	35	347
機械装置及び運搬具	3,867	94	13	3,948	3,676	106	271
工具、器具及び備品	2,150	164	140	2,174	1,939	113	235
土地	3,745	—	—	3,745	—	—	3,745
リース資産	36	32	—	68	31	11	36
建設仮勘定	—	63	62	1	—	—	1
有形固定資産計	17,224	479	226	17,477	11,300	349	6,176
無形固定資産							
ソフトウェア	714	15	—	730	670	119	60
その他	90	—	—	90	76	0	13
無形固定資産計	805	15	—	820	746	119	73

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	本社	耐震補強工事	30
建物・機械装置他	富士工場	ピーズミル機移設工事	16
建物・工具、器具及び備品	神奈川テクニカルセンター	本館、試験棟、外回り照明及び試験棟エアコン更新	105
機械装置	富士工場	第1工場18L自動缶充填装置	20
工具、器具及び備品	神奈川テクニカルセンター	トライボメーター	24

2 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物・工具、器具及び備品	神奈川テクニカルセンター	警備システム更新に伴う廃棄一式	10
〃	本社	エアコン更新に伴う廃棄一式	9
工具、器具及び備品	神奈川テクニカルセンター	試験棟エアコン更新に伴う廃棄資産一式	36
〃	〃	圧延試験機廃棄	18
〃	〃	X線分析顕微鏡廃棄	14

3 建設仮勘定の当期減少額は、各資産科目への振替額であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	25	0	6	19
賞与引当金	314	316	314	316
役員退職慰労引当金	93	24	—	117
厚生年金基金解散損失引当金	275	0	275	—

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 — 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。なお、電子公告は当社ホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 当社ホームページアドレス https://www.yushiro.co.jp/
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

該当事項はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類ならびに確認書

事業年度 第85期（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）2018年6月27日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2018年6月27日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第86期第1四半期（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）2018年8月10日関東財務局長に提出。

第86期第2四半期（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日）2018年11月9日関東財務局長に提出。

第86期第3四半期（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）2019年2月12日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

2018年6月27日関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第8号の2（子会社取得の決定）の規定に基づく臨時報告書

2018年8月7日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月26日

ユシロ化学工業株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 英之 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 守谷 義広 ㊞

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているユシロ化学工業株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ユシロ化学工業株式会社及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ユシロ化学工業株式会社の2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、ユシロ化学工業株式会社が2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月26日

ユシロ化学工業株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 英之 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 守谷 義広 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているユシロ化学工業株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第86期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ユシロ化学工業株式会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年6月26日
【会社名】	ユシロ化学工業株式会社
【英訳名】	Yushiro Chemical Industry Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大 胡 栄 一
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都大田区千鳥2丁目34番16号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社代表取締役社長 大胡 栄一は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である2019年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠した。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社ならびに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しております。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社ならびに連結子会社及び持分法適用関連会社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。なお、一部の連結子会社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、前連結会計年度の連結売上高（連結会社間取引消去後）の概ね2/3に達するまで合算した事業拠点を「重要な事業拠点」としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象としました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年6月26日
【会社名】	ユシロ化学工業株式会社
【英訳名】	Yushiro Chemical Industry Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大 胡 栄 一
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都大田区千鳥2丁目34番16号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 大胡 栄一は、当社の第86期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

